

(様式第10)

奈 医 病 管 第 1 0 5 号
令 和 3 年 1 0 月 5 日

厚生労働大臣 殿

開設者名
公立大学法人奈良県立医科大学
理事長 細井 裕司 (印)

奈良県立医科大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和23年法律第205号）第12条の3第1項及び医療法施行規則（昭和23年厚生省令第50号）第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和2年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒 634-8521 奈良県橿原市四条町840番地
氏 名	公立大学法人奈良県立医科大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

奈良県立医科大学附属病院

3 所在の場所

〒 634-8522 奈良県橿原市四条町840番地	電話(0744) 22-3051
---------------------------	--------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

- 1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科			☑ 有 ・ □ 無	
内科と組み合わせた診療科名等				
1 呼吸器内科		③ 循環器内科		④ 腎臓内科
5 神経内科		7 内分泌内科		8 代謝内科
9 感染症内科		10 アレルギー疾患内科またはアレルギー科		11 リウマチ科
診療実績				
「呼吸器内科」「血液内科」「アレルギー疾患内科またはアレルギー科」の診療内容は呼吸器・アレルギー・血液内科で、「消化器内科」「代謝内科」の診療内容は消化器・代謝内科で、「内分泌内科」の診療内容は糖尿病・内分泌内科で、「神経内科」の診療内容は脳神経内科で、「感染症内科」の診療内容は「感染制御内科」で、「リウマチ科」の診療内容は整形外科で提供している。				

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	☐ 有 ・ ☒ 無
外科と組み合わせた診療科名	
① 呼吸器外科	2 消化器外科
5 血管外科	⑥ 心臓血管外科
3 乳腺外科	4 心臓外科
7 内分泌外科	8 小児外科
診療実績 「消化器外科」「乳腺外科」「小児外科」の診療内容は消化器外科・小児外科・乳腺外科で、「内分泌外科」の診療内容は耳鼻咽喉・頭頸部外科で提供している。	

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

① 精神科	② 小児科	③ 整形外科	④ 脳神経外科	⑤ 皮膚科
⑥ 泌尿器科	⑦ 産婦人科	8 産科	9 婦人科	⑩ 眼科
⑪ 耳鼻咽喉科	⑫ 放射線科	13 放射線診断科	⑭ 放射線治療科	⑮ 麻酔科
				⑯ 救急科

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	☐ 有 ・ ☒ 無
歯科と組み合わせた診療科名	
1 小児歯科	2 矯正歯科
	3 口腔外科
歯科の診療体制 通常の歯科診療内容は歯科口腔外科で提供している。	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 感染制御内科	2 消化器・代謝内科	3 呼吸器・アレルギー・血液内科	4 脳神経内科	5 消化器外科・小児外科・乳腺外科
6 耳鼻咽喉・頭頸部外科	7 形成外科	8 歯科口腔外科	9 病理診断科	10 リハビリテーション科
11 糖尿病・内分泌内科	12 腫瘍内科	13	14	15
16	17	18	19	20

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精 神	感染症	結 核	療 養	一 般	合 計
108 床	9 床	0 床	0 床	875 床	992 床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	598 人	53.9 人	651.9 人	看護補助者	46 人	診療エックス線技師	0 人
歯科医師	26 人	3.4 人	29.4 人	理学療法士	33 人	臨床臨床検査技師	96 人
薬剤師	69 人	5.6 人	74.6 人	作業療法士	10 人	検査衛生検査技師	0 人
保健師	0 人	0.5 人	0.5 人	視能訓練士	6 人	その他	0 人
助産師	65 人	0.0 人	65.0 人	義肢装具士	0 人	あん摩マッサージ指圧師	0 人
看護師	1,043 人	16.6 人	1,059.6 人	臨床工学士	43 人	医療社会事業従事者	33 人
准看護師	1 人	0.3 人	1.3 人	栄 養 士	0 人	その他の技術員	0 人
歯科衛生士	0 人	0.0 人	0.0 人	歯科技工士	3 人	事 務 職 員	286 人
管理栄養士	11 人	1.8 人	12.8 人	診療放射線技師	59 人	その他の職員	0 人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総 合 内 科 専 門 医	72 人	眼 科 専 門 医	11 人
外 科 専 門 医	52 人	耳 鼻 咽 喉 科 専 門 医	12 人
精 神 科 専 門 医	20 人	放 射 線 科 専 門 医	30 人
小 児 科 専 門 医	24 人	脳 神 経 外 科 専 門 医	20 人
皮 膚 科 専 門 医	9 人	整 形 外 科 専 門 医	38 人
泌 尿 器 科 専 門 医	8 人	麻 酔 科 専 門 医	27 人
産 婦 人 科 専 門 医	19 人	救 急 科 専 門 医	13 人
		合 計	355 人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (吉川 公彦) 任命年月日 令和2年 4月 1日

医療安全管理責任者（平成30年4月1日～令和2年3月31日）

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1 日当たり平均入院患者数	653.8 人	13.7 人	667.6 人
1 日当たり平均外来患者数	2,012.4 人	98.0 人	2,110.4 人
1 日当たり平均調剤数			3,846.8 剤
必要医師数			183.0 人
必要歯科医師数			7.0 人
必要薬剤師数			49.0 人
必要（准）看護師数			405.0 人

(注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。

2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施 設 名	床面積	主要構造	設 備	概 要
集中治療室	579.06 m ²	鉄筋コンクリート	病 床 数 人工呼吸装置 その他の救急蘇生装置	24 床 ☒ 有 ・ ☐ 無 ☒ 有 ・ ☐ 無 ☒ 有 ・ ☐ 無 心電計 心細動除去装置 ペースメーカー ☒ 有 ・ ☐ 無 ☒ 有 ・ ☐ 無 ☒ 有 ・ ☐ 無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 [移動式の場合] 台 数		263.60 m ² m ² 台	病床数 21 床 病床数 床
医 薬 品 情報管理室	[専用室の場合] 床面積 [共用室の場合] 共用する室名		67.90 m ²	
化学検査室	194.60 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	尿検査システム等
細菌検査室	174.10 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	生化学自動分析システム等
病理検査室	176.70 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	検体搬送システム等
病理解剖室	226.20 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	電動解剖ノコクリーンカットシステム等
研 究 室	1,589.40 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	各種 実験・研究装置等
講 義 室	460.40 m ²	鉄筋コンクリート	室数 2 室	収容定員 317 人
図 書 室	1,303.10 m ²	鉄筋コンクリート	室数 5 室	蔵書数 143,379 冊程度

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率		94.90 %	逆紹介率	107.40 %
算出根拠	A：紹介患者の数		15,215 人	
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数		20,334 人	
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数		2,744 人	
	D：初診の患者の数		18,934 人	

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
- 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
- 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
水本 一弘	和歌山県立医科大学	○	和歌山県立医科大学附属病院医療安全推進室長であり、医療にかかる安全に関する見識を有するため。	☐ 有 ・ ☒ 無	1
加藤 高志	加藤高志法律事務所		医療に関する訴訟経験が豊富であり、法律に関する見識を有するため。	☐ 有 ・ ☒ 無	1
松井 忠昭	ボランティアグループ ラポール		病院の状況への理解が深く、医療を受ける側の立場からの客観的意見を得られるため。	☐ 有 ・ ☒ 無	2
				☐ 有 ・ ☐ 無	
				☐ 有 ・ ☐ 無	
				☐ 有 ・ ☐ 無	
				☐ 有 ・ ☐ 無	

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
- 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 - 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
 - その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	☒ 有 ・ ☐ 無
委員の選定理由の公表の有無	☒ 有 ・ ☐ 無
公表の方法	
病院ホームページでの公表	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先 進 医 療 の 種 類	取扱患者数
MRI撮影及び超音波検査融合画像に基づく前立腺針生検法	14人
血中TARC濃度の迅速測定	2人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先 進 医 療 の 種 類	取扱患者数
パクリタキセル静脈内投与(一週間に一回投与するものに限る。)及びカルボプラチン腹腔内投与(三週間に一回投与するものに限る。)の併用療法 上皮性卵巣がん、卵管がん又は原発性腹膜がん	0人
マルチプレックス遺伝子パネル検査 難治性固形がん(ステージがⅢ期若しくはⅣ期で手術が不能なもの又は治療後に再発したものであって、治療法が存在しないもの又は従来の治療法が終了しているもの若しくは従来の治療法が終了予定のものに限り、肉腫を除く。)	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
提供実績なし			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

疾患名	患者数		疾患名	患者数
1 球脊髄性筋萎縮症	7	56	ベーチェット病	29
2 筋萎縮性側索硬化症	37	57	特発性拡張型心筋症	89
3 脊髄性筋萎縮症	1	58	肥大型心筋症	33
4 原発性側索硬化症	1	59	拘束型心筋症	0
5 進行性核上性麻痺	18	60	再生不良性貧血	39
6 パーキンソン病	248	61	自己免疫性溶血性貧血	3
7 大脳皮質基底核変性症	11	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	4
8 ハンチントン病	7	63	特発性血小板減少性紫斑病	48
9 神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	2
10 シアルコー・マリール・トゥース病	6	65	原発性免疫不全症候群	6
11 重症筋無力症	86	66	IgA 腎症	97
12 先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	39
13 多発性硬化症／視神経脊髄炎	64	68	黄色靱帯骨化症	8
14 慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	17	69	後縦靱帯骨化症	47
15 封入体筋炎	6	70	広範脊柱管狭窄症	1
16 クロウ・深瀬症候群	1	71	特発性大腿骨頭壊死症	62
17 多系統萎縮症	23	72	下垂体性ADH分泌異常症	14
18 脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	69	73	下垂体性TSH分泌亢進症	2
19 ラインゾーム病	10	74	下垂体性PRL分泌亢進症	9
20 副腎白質ジストロフィー	0	75	クッシング病	3
21 ミトコンドリア病	8	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22 もやもや病	34	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	17
23 プリオン病	3	78	下垂体前葉機能低下症	94
24 亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	1
25 進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26 HTLV-1関連脊髄症	1	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	1
27 特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	0
28 全身性アミロイドーシス	31	83	アジソン病	1
29 ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	56
30 遠位型ミオパチー	4	85	特発性間質性肺炎	38
31 ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	20
32 自己食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	0
33 シュワルツ・ヤンベル症候群	0	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	7
34 神経線維腫症	25	89	リンパ脈管筋腫症	2
35 天疱瘡	14	90	網膜色素変性症	9
36 表皮水疱症	1	91	バッド・キアリ症候群	3
37 膿疱性乾癬(汎発型)	13	92	特発性門脈圧亢進症	2
38 スティーヴンス・ジョンソン症候群	1	93	原発性胆汁性肝硬変	83
39 中毒性表皮壊死症	0	94	原発性硬化性胆管炎	4
40 高安動脈炎	18	95	自己免疫性肝炎	19
41 巨細胞性動脈炎	9	96	クローン病	65
42 結節性多発動脈炎	14	97	潰瘍性大腸炎	177
43 顕微鏡的多発血管炎	54	98	好酸球性消化管疾患	1
44 多発血管炎性肉芽腫症	10	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
45 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	9	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46 悪性関節リウマチ	9	101	腸管神経節細胞減少症	0
47 パージャール病	14	102	ルビンシュタイン・ティビ症候群	0
48 原発性抗リン脂質抗体症候群	2	103	CFC症候群	0
49 全身性エリテマトーデス	194	104	コステロ症候群	0
50 皮膚筋炎／多発性筋炎	109	105	チャージ症候群	0
51 全身性強皮症	76	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52 混合性結合組織病	30	107	全身型若年性特発性関節炎	1
53 シェーグレン症候群	30	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54 成人スチル病	11	109	非典型溶血性尿毒症症候群	1
55 再発性多発軟骨炎	5	110	ブラウ症候群	0
疾患名	患者数		疾患名	患者数
111 先天性ミオパチー	1	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112 マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	11
113 筋ジストロフィー	30	163	特発性後天性全身性無汗症	5
114 非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	2
115 遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116 アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	2
117 脊髄空洞症	4	167	マルファン症候群	1
118 脊髄髄膜瘤	1	168	エーラス・ダンロス症候群	3
119 アイザックス症候群	0	169	メンケス病	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	1
122	脳表ヘモジデリン沈着症	1	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	1
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	3	177	有馬症候群	0
128	ピッカー・スタッフ脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリズ症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	1	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	2
142	ミオクロニー欠伸てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	ブラダー・ウィリ症候群	0
144	レノックス・ガストー症候群	1	194	ソトス症候群	0
145	ウエスト症候群	1	195	ヌーナン症候群	0
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンブソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	1	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	1	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	0	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	2	208	修正大血管転位症	0
159	色素性乾皮症	1	209	完全大血管転位症	0
160	先天性魚鱗癬	1	210	単心室症	0
	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	0	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	0	263	脳腫黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	0	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	0	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	0	266	家族性地中海熱	0
219	ギャロウェイ・モワット症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	3	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	2	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	93	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	3	271	強直性脊椎炎	4
224	紫斑病性腎炎	8	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	0	274	骨形成不全症	0
227	オスラー病	3	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	0	276	軟骨無形成症	0
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

230	肺胞低換気症候群	6	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α 1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	1
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	3	283	後天性赤芽球癆	3
236	偽性副甲状腺機能低下症	0	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンconi貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	1	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	0	288	自己免疫性出血病XIII	6
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	0
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸	0
244	メーブルシロップ尿症	3	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	2
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	0
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膀胱炎	1
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	1
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	13
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	1
254	ポルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	1	305	遅発性内リンパ水腫	1
258	ガラクトースー1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	2
疾患名		患者数	疾患名		患者数
307	カナバン病	0	319	セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症	0
308	進行性白質脳症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
309	進行性ミオクローヌスてんかん	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
310	先天異常症候群	0	322	β -ケトチオラーゼ欠損症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	326	大理石骨病	2
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	2
316	カルニチン回路異常症	0	328	前眼部形成異常	0
317	三頭酵素欠損症	0	329	無虹彩症	0
318	シトリン欠損症	0	330	先天性気管狭窄症	0
			331	特発性多中心性キャッスルマン病	4
			332	膠様滴状角膜ジストロフィー	0
			333	ハッチンソン・ギルフォード症候群	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
特定機能病院入院基本料	ハイリスク分娩管理加算
地域歯科診療支援病院歯科初診料	精神科救急搬送患者地域連携紹介加算
歯科外来診療環境体制加算2	病棟薬剤業務実施加算1及び2
歯科診療特別対応連携加算	データ提出加算2
救急医療管理加算	入退院支援加算1(一般病棟) 入院時支援加算 地域連携診療計画加算 総合機能評価加算
超急性期脳卒中加算	認知症ケア加算1
診療録管理体制加算2	せん妄ハイリスク患者ケア加算
医師事務作業補助体制加算1 30対1	精神疾患診療体制加算
25対1急性期看護補助体制加算	排尿自立支援加算
看護職員夜間配置加算1 12対1	地域医療体制確保加算
看護補助加算3(D2病棟のみ)	救命救急入院料3及び4
療養環境加算	特定集中治療室管理料1 早期離床・リハビリテーション加算有
重症者等療養環境特別加算	脳卒中ケアユニット入院医療管理料
無菌治療室管理加算1及び2	総合周産期特定集中治療室管理料
緩和ケア診療加算	新生児治療回復室入院医療管理料
精神科応急入院施設管理加算	一類感染症患者入院医療管理料
精神病棟入院時医学管理加算	小児入院医療管理料1
精神科身体合併症管理加算	精神科救急入院料1 看護職員夜間配置加算有
精神科リエゾンチーム加算	精神科救急・合併症入院料 看護職員夜間配置加算有
摂食障害入院医療管理加算	・
栄養サポートチーム加算	・
医療安全対策加算1	・
感染防止対策加算1 抗菌薬適正使用支援加算有	・
患者サポート体制充実加算	・
褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
ハイリスク妊娠管理加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
ウイルス疾患指導料	在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
遠隔モニタリング加算(ペースメーカー指導管理料)	在宅経肛門的自己洗腸指導管理料
糖尿病合併症管理料	持続血糖測定器加算
がん性疼痛緩和指導管理料	骨髄微小残存病変量測定
がん患者指導管理料イ、ロ、ハ及びニ	BRCA1/2遺伝子検査
外来緩和ケア管理料	がんゲノムプロファイリング検査
移植後患者指導管理料(臓器移植後の場合)	先天性代謝異常症検査
糖尿病透析予防指導管理料	抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)
小児運動器疾患指導管理料	HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
乳腺炎重症化予防ケア・指導料	検体検査管理加算(Ⅰ)、検体検査管理加算(Ⅳ)
婦人科特定疾患治療管理料	国際標準検査管理加算
腎代替療法指導管理料	遺伝カウンセリング加算
外来放射線照射診療料	時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
療養・就労両立支援指導料 相談支援加算	胎児心エコー法
ハイリスク妊産婦共同管理料(Ⅰ)	ヘッドアップティルト試験
がん治療連携計画策定料	人工臓器検査
外来排尿自立指導料	皮下連続式グルコース測定
肝炎インターフェロン治療計画料	長期継続頭蓋内脳波検査
ハイリスク妊産婦連携指導料1	長期脳波ビデオ同時記録検査1
ハイリスク妊産婦連携指導料2	単線維筋電図
薬剤管理指導料	光トポグラフィー
医療機器安全管理料1、医療機器安全管理料2、医療機器安全管理料(歯科)	終夜睡眠ポリグラフィー(安全精度管理下で行うもの)
精神科退院時共同指導料1、精神科退院時共同指導料2	脳波検査判断料1
総合医療管理加算(歯科疾患管理料)	神経学的検査
在宅患者訪問看護・指導料(緩和ケア・褥瘡ケア・人工肛門ケア及び人工膀胱ケア)	補聴器適合検査
遠隔モニタリング加算(在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料)	ロービジョン検査判断料

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
小児食物アレルギー負荷検査	通院・在宅精神療法(療養生活環境整備指導加算)
内服・点滴誘発試験	救急患者精神科継続支援料
センチネルリンパ節生検(片側)	認知療法・認知行動療法1
経気管支凍結生検法	精神科作業療法
有床義歯咀嚼機能検査、咀嚼能力検査及び咬合圧検査	精神科ショート・ケア(大規模)(小規模)
精密触覚機能検査	精神科デイ・ケア(大規模)(小規模)
画像診断管理加算1、画像診断管理加算2	抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)
遠隔画像診断	医療保護入院等診療料
ポジトロン断層撮影、ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	静脈圧迫処置(慢性静脈不全に対するもの)
CT撮影及びMRI撮影	硬膜外自家血注入
冠動脈CT撮影加算	エタノールの局所注入(甲状腺)、エタノールの局所注入(副甲状腺)
血流予備量比コンピューター断層撮影	人工腎臓、導入期加算2及び腎代替療法実績加算、透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
外傷全身CT加算	人工臓器療法
心臓MRI撮影加算	CAD/CAM冠
乳房MRI撮影加算	有床義歯修理及び有床義歯内面適合法の歯科技工加算
小児鎮静下MRI撮影加算	皮膚悪性腫瘍切除術(悪性黒色腫センチネルリンパ節加算算定する場合に限る。)
抗悪性腫瘍剤処方管理加算	皮膚移植術(死体)
外来化学療法加算1	組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。)
無菌製剤処理料	処理骨再建加算
心大血管疾患リハビリテーション料(I)	骨移植術(軟骨移植術を含む。)(同種骨移植(非生体)(同種骨移植(特殊なものに限る。)))
脳血管疾患等リハビリテーション料(I)	骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)
運動器リハビリテーション料(I)	後縦靱帯骨化症手術(前方進入によるもの)
呼吸器リハビリテーション料(I)	椎間板内酵素注入療法
がん患者リハビリテーション料	脳腫瘍覚醒下マッピング加算
歯科口腔リハビリテーション料2	脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む)、脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
通院・在宅精神療法(児童思春期精神科専門管理加算)	仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)	腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
人工中耳植込術及び人工内耳植込術	腹腔鏡下噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)	バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
鏡視下喉頭悪性腫瘍手術	胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る)(共に歯科診療)	腹腔鏡下肝切除術
顎関節人工関節全置換術(歯科診療に係るもの)	生体部分肝移植術
乳腺悪性腫瘍手術(乳がんセンチネルリンパ節加算1又は乳がんセンチネルリンパ節加算2を算定する場合に限る。)	腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	腹腔鏡下膵頭部腫瘍切除術
肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)	腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
内視鏡下筋層切開術	腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)等	腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)
経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
経カテーテル大動脈弁置換術	腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
経皮的中心筋焼灼術	同種死体腎移植術
ペースメーカー移植術及び交換術(リードレスペースメーカーによるものを含む)	生体腎移植術
両心室ペースメーカー移植術、両心室ペースメーカー交換術	膀胱水圧拡張術
植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術	腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	人工尿道括約筋植込・置換術
経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)	腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
補助人工心臓	腹腔鏡下仙骨隆固定術
経皮的下肢動脈形成術	腹腔鏡下仙骨隆固定術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)	腹腔鏡下膣式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)	腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)	病理診断管理加算2、口腔病理診断管理加算2
腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	悪性腫瘍病理組織標本加算
胃瘻造設術(内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)	クラウン・ブリッジ維持管理料
遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術	歯科矯正診断料
遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術	顎口腔機能診断料 (顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る)の手術前後における歯科矯正に係るもの)
輸血管理料Ⅰ	
貯血式自己血輸血管理体制加算	
自己生体組織接着剤作成術	
同種クリオプレシピテート作製術	
人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	
広範囲顎骨支持型装置埋入手術	
麻酔管理料(Ⅰ)、麻酔管理料(Ⅱ)	
放射線治療専任加算	
外来放射線治療加算	
高エネルギー放射線治療	
1回線量増加加算	
強度変調放射線治療(IMRT)	
画像誘導放射線治療(IGRT)	
体外照射呼吸性移動対策加算	
定位放射線治療	
定位放射線治療呼吸性移動対策加算	
画像誘導密封小線源治療加算	
保険医療機関間の連携による病理診断	
保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製	
保健医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による迅速細胞診	
デジタル病理画像による病理診断	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
該当なし	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	概ね週1回
剖 検 の 状 況	剖検症例数 27例 / 剖検率 5.3%

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
血友病A治療を目指したユニバーサル細胞療法の創出	嶋 緑倫	小児科学	14,430,000	補	文部科学省
高LET放射線と抗VEGF抗体の併用によるグリオーマ幹細胞制御機構の解明	長谷川 正俊	放射線腫瘍医学	4,290,000	補	文部科学省
EGFRⅢ特異的CAR発現iPS由来NK細胞を用いた膠芽腫治療の基盤的研究	中瀬 裕之	脳神経外科学	3,250,000	補	文部科学省
慢性腎臓病に合併する心不全発症におけるアフターロードミスマッチの分子機序の解明	斎藤 能彦	循環器内科学	5,850,000	補	文部科学省
難治性消化器癌に対する治療抵抗性克服による新規集学的免疫治療戦略の開発	庄 雅之	消化器・総合外科学	3,640,000	補	文部科学省
多系統萎縮症に合併する睡眠呼吸障害の多様性—呼吸管理から生命予後改善をめざす—	山内 基雄	呼吸器内科学	780,000	補	文部科学省
肺線維症合併肺癌に対する制御性T細胞を標的とした新たな治療戦略の探索	本津 茂人	呼吸器内科学	910,000	補	文部科学省
HLA-Fを標的とした新規がん免疫療法およびがん診断マーカー開発	王寺 典子(下嶋)	免疫学	1,430,000	補	文部科学省
切除不能・再発膀胱癌に対するミセル化ナノ粒子を用いた膀胱動注療法の開発	田中 利洋	放射線医学	1,950,000	補	文部科学省
中等症・軽症血友病Aにおける第Ⅷ因子の凝血学的特性に基づく新規治療戦略の開発	矢田 弘史	寄附講座血友病教育講座	910,000	補	文部科学省
血液凝固における第Ⅷ因子制御軸の解明と血友病A及び血栓性疾患の新規治療薬への応用	野上 恵嗣	小児科学	780,000	補	文部科学省
心筋疾患に対する新たな臨床応用可能な核酸医療薬の開発と評価	尾上 健児	循環器内科学	1,560,000	補	文部科学省
心臓交感神経イメージング法を用いた右心不全に対する治療効果判定および予後評価	笠間 周	臨床研究センター	1,040,000	補	文部科学省
トリプルネガティブ乳癌における新規免疫不活化経路阻害分子探索および治療への展望	池田 直也	消化器・総合外科学	1,300,000	補	文部科学省
胸部大動脈人工血管置換術中のレーザースペックルフローグラフィによる眼血流測定	林 浩伸	麻酔科学	910,000	補	文部科学省
CD44のバリエーションアイソフォームをターゲットとした子宮内膜症の新規治療法の確立	小川 憲二	産婦人科学	520,000	補	文部科学省
メニエール病診断法の開発—内リンパ水腫の新しい評価法の確立—	北野 公一	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	390,000	補	文部科学省
即時荷重インプラントの荷重下で生じるマイクロモーションの定量的予測と最適治療指針	杉浦 勉	口腔外科学	1,040,000	補	文部科学省
MIA2関連シグナルを標的とした口腔癌の分子診断・治療の新展開	栗原 都	口腔外科学	780,000	補	文部科学省
骨転移を有する長期生存がん患者・悪性骨腫瘍患者の身体活動量維持プログラムの開発	城戸 顕	リハビリテーション科	910,000	補	文部科学省
肝細胞癌TACEにおける多孔性ガラス膜新規乳化デバイスの製品化に向けた開発	正田 哲也	放射線医学	1,560,000	補	文部科学省
凝固線溶バランスを基盤とした小児がん血栓症に対する新規テーラーメイド治療の確立	石原 卓	小児科学	1,430,000	補	文部科学省
肺線維症患者に対する間葉系幹細胞療法の臨床応用を目指した有効な新規マーカーの探索	熊本 牧子	呼吸器内科学	1,300,000	補	文部科学省
消化管虚血再還流障害による癌転移促進のメカニズムの解明と転移抑制治療への応用	若月 幸平	消化器・総合外科学	1,430,000	補	文部科学省
T細胞不活化経路をターゲットとした腫瘍免疫療法と抗腫瘍薬を併用した新規治療の開発	北東 大督	消化器・総合外科学	1,300,000	補	文部科学省

小計 25

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
肛門病変検体を用いたT細胞不活化によるクローン病新規免疫療法探求	久下 博之	消化器・総合外科学	1,040,000	補	文部科学省
敗血症における原因菌の迅速同定技術の開発	川井 廉之	救急医学	1,170,000	補	文部科学省
間葉系幹細胞シートを用いた神経束移植における新規治療法の確立	田中 康仁	整形外科科学	1,040,000	補	文部科学省
MRスペクトロスコーピーを用いて子宮内膜症の悪性化を早期に予測する新規検査法の確立	吉元 千陽	MFICU	1,430,000	補	文部科学省
ABRを用いた新しい軟骨伝導補聴器の装用効果評価法	森本 千裕	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	1,430,000	補	文部科学省
下肢足圧の中心動揺と荷重量による定量的体平衡検査法の開発	山中 敏彰	めまいセンター	1,430,000	補	文部科学省
DNA修復経路と細胞内物質輸送を標的とした口腔がん治療法の開発	桐田 忠昭	口腔外科学	910,000	補	文部科学省
伸展負荷による血管平滑筋細胞死での転写因子Nr4aの役割解明と動脈解離予防薬開発	吉栖 正典	薬理学	1,690,000	補	文部科学省
ナノテクノロジーと分子イメージング技術を融合させた新規IVR治療の開発	西尾福 英之	放射線医学	1,300,000	補	文部科学省
冠動脈石灰化結節の進行を予測する冠動脈プラークおよびリン代謝バイオマーカーの同定	渡邊 真言	循環器内科学	1,820,000	補	文部科学省
循環器疾に合併する後天性フォンヴィレブランド症候群の診断法・治療戦略の構築	早川 正樹	輸血部	1,430,000	補	文部科学省
ヒト肺気腫における肺胞修復機構をCT画像とマウス実験により評価する手法の確立	室 繁郎	呼吸器内科学	1,820,000	補	文部科学省
活性化プロテインCおよびプロテインS制御による安定化第VIII因子製剤の開発	武山 雅博	小児科学	1,950,000	補	文部科学省
再生医療工学を応用した新しい潰瘍性大腸炎手術の開発	小山 文一	中央内視鏡部	2,080,000	補	文部科学省
CD36発現解析による新規脾癌運動介入療法の開発	赤堀 宇広	消化器・総合外科学	1,690,000	補	文部科学省
消化器癌における静脈血栓症機序の新概念と次世代型抗血栓治療法の開発	野見 武男	消化器・総合外科学	910,000	補	文部科学省
直腸癌手術における電極付き尿道カテーテルを用いた術中排尿機能モニタリングの検討	阿部 龍一	中央手術部	1,430,000	補	文部科学省
膠芽腫に対するNK細胞と新たな免疫チェックポイント阻害の併用療法の開発	松田 良介	脳神経外科学	1,430,000	補	文部科学省
骨形成細胞シートと生体内誘導骨形成膜の融合による新規骨再生研究	河村 健二	玉井進記念四肢外傷センター	1,430,000	補	文部科学省
間質性膀胱炎の脂質代謝に着目した病態解明と血液バイオマーカー開発	鳥本 一匡	泌尿器科学	2,340,000	補	文部科学省
チョコレート嚢胞の癌化を高い精度で予測する検査法の安全性・有効性の検証	重富 洋志	産婦人科学	1,430,000	補	文部科学省
新規口腔癌特異的遺伝子であるSTOX2の機能解明と診断・治療への応用の模索	笹平 智則	分子病理学	1,690,000	補	文部科学省
定量評価に基づく顎骨再建シミュレーションと高精度手術デバイスの開発	上田 順宏	口腔外科学	1,560,000	補	文部科学省
脾癌に対するCD200を標的とした小分子化合物の探索と新規治療戦略の開発	庄 雅之	消化器・総合外科学	3,120,000	補	文部科学省
川崎病の病態・合併症におけるVWF-ADAMTS13軸の解明及び新規治療薬の開発	辻井 信之	小児科学	1,040,000	補	文部科学省
包括的凝固線溶ダイナミクス解析を基盤とする播種性血管内凝固の新規診断法の確立	大西 智子	小児科学	1,300,000	補	文部科学省
NASHに対する胆汁酸受容体TGR5の活性化と既存薬剤を応用した新規治療法の開発	賀屋 大介	消化器内科学	260,000	補	文部科学省
間葉系幹細胞シートと組織移植を融合させたハイブリッド型自家神経作成の試み	清水 隆昌	整形外科科学	1,040,000	補	文部科学省
血友病A治療におけるインヒター発生抑制を標的とした新規第VIII因子製剤の開発	古川 晶子	寄附講座血栓止血分子病態学講座	910,000	補	文部科学省

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
血液凝固因子であるVWFを用いた肝細胞癌新規治療法と新規バイオマーカーの開発	高谷 広章	消化器内科学	1,430,000	補	文部科学省
肝内胆管癌に対するNOTCH/YAP経路のクロストーク制御を介する新規治療の開発	才川 宗一郎	中央内視鏡部	1,950,000	補	文部科学省
NASH進展に対するFXR作動薬を用いたカクテル療法の可能性	関 建一郎	消化器内科学	1,950,000	補	文部科学省
ADAMTS13関連因子を軸とした肝虚血再灌流障害に対する新規治療戦略	吉川 高宏	消化器・総合外科学	1,690,000	補	文部科学省
ユビキチン修飾系を標的とした新規食道癌治療法の臨床導入を目的とした研究	國重 智裕	腫瘍センター	2,080,000	補	文部科学省
CD200をターゲットとした大腸癌肝転移に対する新規治療法の開発	松尾 泰子	消化器・総合外科学	910,000	補	文部科学省
膵癌におけるCD70発現の意義の解明と新規治療の開発	中村 広太	消化器・総合外科学	2,080,000	補	文部科学省
CD200陽性大腸癌細胞の機能解析による新規大腸癌治療の開発	岩佐 陽介	消化器・総合外科学	2,210,000	補	文部科学省
術後関節拘縮および癒着に対する合成吸収性癒着防止剤による新規予防法の開発	吉良 務	整形外科	1,040,000	補	文部科学省
超音波加温時の音速変化率の測定による、癌治療効果の早期予測	齊藤 夏彦	放射線医学	1,950,000	補	文部科学省
がん免疫逃避機構からみた肝動脈塞栓術後再発メカニズムの解明と、新規治療戦略の開発	松本 武士	放射線医学	1,690,000	補	文部科学省
進行肝細胞癌に対するレンパチニブ含浸ビーズを用いた新規IVR治療の開発	佐藤 健司	総合画像診断センター	2,210,000	補	文部科学省
グリコカリックス・赤血球による血栓制御に着目した溶血性尿毒症症候群治療法の創出	坂田 飛鳥	血栓止血医薬生物学共同研究講座	1,430,000	補	文部科学省
ABPMおよびBIAを用いた、HFpEFの病態および治療開発にむけた研究	上田 友哉	集中治療部	1,560,000	補	文部科学省
骨髄幹細胞移植と血球除去療法併用による難治性潰瘍性大腸炎に対する新規治療法の開発	定光 ともみ	消化器・総合外科学	1,430,000	補	文部科学省
Cullin4Aを介した食道癌の進展機序の包括的解明と新規治療戦略の開発	中出 裕士	消化器・総合外科学	1,820,000	補	文部科学省
胆膵癌におけるCD200発現の意義の解明と治療抵抗性を標的とした新規治療法の開発	中川 顕志	消化器・総合外科学	1,820,000	補	文部科学省
次世代抗B型肝炎ウイルス薬導出に向けた創薬研究	永森 收志	生体分子不均衡制御学	7,410,000	委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
HIV 関連病態としての血友病の根治を目指した次世代治療法・診断法の創出	野上 恵嗣	小児科	16,900,000	委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
膵がん患者を対象とした、新規LAT1阻害剤の安全性と有効性を探索する医師主導臨床試験	永森 收志	生体分子不均衡制御学共同研究講座	1,300,000	委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
超音波デジタル画像のナショナルデータベース構築と人工知能支援型超音波診断システム開発に関する研究 20lk1010035h0002	平井 都始子	総合画像診断センター	500,000	委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
C型肝炎ウイルス排除治療による肝硬変患者のアウトカムに関する研究開発	吉治 仁志	消化器内科学講座	1,170,000	委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
B型肝炎ウイルス(HBV)感染サイクル(生活環)で機能する宿主・ウイルス因子を標的とした新規抗HBV剤・HBV感染制御法の開発	永森 收志	生体分子不均衡制御学共同研究講座	4,550,000	委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
ゲノム分子病理解析による難治性心筋症における精密医療の実現	尾上 健児	循環器内科	650,000	委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
難治性心血管疾患におけるマルチオミックス解析による病態解明と精密医療	尾上 健児	循環器内科	650,000	委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
マルチオミックス連関による循環器疾患における次世代型精密医療の実現	斎藤 能彦	循環器内科	1,300,000	委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構

小計 26

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
植込型補助人工心臓装着予定患者を対象とした出血性合併症リスクの事前予測に基づいた個別化精密医療・最適化補助人工心臓治療の実現	松本 雅則	輸血部	702,000	委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
新生児から成人までに発症する特発性血栓症の診療アルゴリズムの確立	野上 恵嗣	小児科	1,430,000	委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
精神疾患レジストリの構築・統合により新たな診断・治療法を開発するための研究	牧之段 学	精神医学	1,950,000	委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
新型コロナウイルスの検出用デバイスおよび診断薬開発のための基盤研究	川井 廉之	救急医学	10,140,000	委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
抗ADAMTS13阻害抗体による後天性von Willebrand症候群の治療法の開発	松本 雅則	輸血部	7,150,000	委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
幹細胞および組織工学技術を基盤とする血友病Aユニバーサル細胞療法の創出	辰巳 公平	血栓止血先端医学	1,200,000	補	公益財団法人母子健康協会
血友病A治療に向けた間葉系幹細胞からの肝類洞内皮細胞の作製	三谷 成二	血栓止血先端医学	2,000,000	補	公益財団法人テルモ生命科学振興財団
ヒト人工多能性幹細胞由来の骨形成細胞集合体を用いたスポーツ外傷および障害に対する再生医療の検討	岡村 建祐	整形外科学	1,000,000	補	公益財団法人日本スポーツ医学財団
				小計	8

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入す 計 88

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1	Imanaka S, Maruyama S, Kimura M, et al.	産婦人科	Relationship between Cyst Fluid Concentrations of Iron and Severity of Dysmenorrhea in Patients with Ovarian Endometrioma.	Gynecol Obstet Invest. 2021 Mar; 86(1-2): 185-192	Original Article
2	Charoenvisal C, Tanaka T, Nishiofuku H, et al.	放射線・核医学科	Feasibility and Techniques of Securing 3D-Safety Margin in Superselective Transarterial Chemoembolization to Improve Local Tumor Control for Small Hepatocellular Carcinoma: An Intent-to-Treat Analysis.	Liver Cancer. 2021 Feb; 10(1): 63-71	Original Article
3	Miyake M, Iida K, Nishimura N, et al.	泌尿器科	Non-maintenance intravesical Bacillus Calmette-Guérin induction therapy with eight doses in patients with high- or highest-risk non-muscle invasive bladder cancer: a retrospective non-randomized comparative study.	BMC Cancer. 2021 Mar; 21(1): 266 (オンライン)	Original Article
4	Watakabe M, Ishihara T, Ochi S, et al.	小児科	Successful unrelated cord blood transplantation for Diamond-Blackfan anemia.	Pediatr Int. 2021 Mar; 63(3): 356-358	Original Article
5	Nakai Y, Tanaka N, Matsubara T, et al.	泌尿器科	Effect of Prolonged Duration of Transrectal Ultrasound-Guided Biopsy of the Prostate and Pre-Procedure Anxiety on Pain in Patients without Anesthesia.	Res Rep Urol. 2021 Mar; 13: 111-120 (オンライン)	Original Article
6	Okuda N, Kyogoku M, Inata Y, et al.	感染制御内科	Estimation of change in pleural pressure in assisted and unassisted spontaneous breathing pediatric patients using fluctuation of central venous pressure: A preliminary study.	PLoS One. 2021 Mar; 16(3): e0247360 (オンライン)	Original Article
7	Kurata S, Inoue K, Hasegawa H, et al.	整形外科	The Role of the Acromioclavicular Ligament in Acromioclavicular Joint Stability: A Cadaveric Biomechanical Study.	Orthop J Sports Med. 2021 Feb; 9(2): 2325967120982947 (オンライン)	Original Article
8	Yasukawa M, Kawaguchi T, Kimura M, et al.	心臓血管外科	Implications of Preoperative Transbronchial Lung Biopsy for Non-small Cell Lung Cancer Less than 3-cm.	In Vivo. 2021 Mar; 35(2): 1027-1031	Original Article
9	Miyake M, Nishimura N, Inoue T, et al.	泌尿器科	Fluorescent cystoscopy-assisted en bloc transurethral resection versus conventional transurethral resection in patients with non-muscle invasive bladder cancer: study protocol of a prospective, open-label, randomized control trial (the FLEBER study).	Trials. 2021 Feb; 22(1): 136 (オンライン)	Original Article
10	Moriya K, Namisaki T, Takaya H, et al.	消化器・内分泌代謝内科	Identification of the Response-Related Biomarker of Bimonthly Hepatic Arterial Infusion Chemotherapy.	J Clin Med. 2021 Feb; 10(4): 629 (オンライン)	Original Article
11	Yaoi H, Shida Y, Kitazawa T, Shima M, et al.	小児科	Emicizumab improves thrombus formation of type 2A von willebrand disease under high shear condition.	Haemophilia. 2021 Mar; 27(2): e194-e203	Original Article
12	Miyake M, Nishimura N, Nakai Y, et al.	泌尿器科	Photodynamic Diagnosis-Assisted Transurethral Resection Using Oral 5-Aminolevulinic Acid Decreases the Risk of Repeated Recurrence in Non-Muscle-Invasive Bladder Cancer: A Cumulative Incidence Analysis by the Person-Time Method.	Diagnostics (Basel). 2021 Jan; 11(2): 185 (オンライン)	Original Article
13	Ueda T, Kawakami R, Nogi K, et al.	循環器内科	Serum iron: a new predictor of adverse outcomes independently from serum hemoglobin levels in patients with acute decompensated heart failure.	Sci Rep. 2021 Jan; 11(1): 2395 (オンライン)	Original Article
14	Ogawa K, Shimada K, Takai T, et al.	皮膚科	High Expression of Lactate Dehydrogenase A is a Potential Promoter of Malignant Behaviour in Extramammary Paget's Disease.	Acta Derm Venereol. 2021 Jan; 101(1): adv00379 (オンライン)	Original Article
15	Sakai K, Fujimura Y, Nagata Y, et al.	輸血部	Success and limitations of plasma treatment in pregnant women with congenital thrombotic thrombocytopenic purpura.	J Thromb Haemost. 2020 Nov; 18(11): 2929-2941	Original Article
16	Owari T, Miyake M, Nakai Y, et al.	泌尿器科	External validation of a genitourinary cancer-specific prognostic scoring system to predict survival for patients with bone metastasis (modified B-FOM scoring model): Comparison with other scoring models in terms of accuracy.	J Bone Oncol. 2021 Feb; 26: 100344 (オンライン)	Original Article
17	Takaya H, Namisaki T, Moriya K, et al.	消化器・内分泌代謝内科	Association between ADAMTS13 activity-VWF antigen imbalance and the therapeutic effect of HAIC in patients with hepatocellular carcinoma.	World J Gastroenterol. 2020 Dec; 26(45): 7232-7241	Original Article
18	Nagatomi S, Ichihashi S, Yamamoto H, et al.	放射線・核医学科	Efficacy of Multichannel Balloon Angioplasty in Calcified Common Femoral Artery Lesions.	J Vasc Interv Radiol. 2021 Feb; 32(2): 181-186	Original Article

小計18件

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
19	Morita S, Taniguchi A, Miyamoto T, et al.	整形外科	Application of a Customized Total Talar Prosthesis for Revision Total Ankle Arthroplasty.	JB JS Open Access. 2020 Dec; 5(4): e20.00034(オンライン)	Original Article
20	Yamashita K, Abe T, Hayata Y, et al.	心臓血管外科	Copeptin concentration following cardiac surgery as a prognostic marker of postoperative acute kidney injury: a prospective cohort study.	J Thorac Dis. 2020 Nov; 12(11): 6609–6617	Original Article
21	Kawaratani H, Moriya K, Namisaki T, et al.	消化器・内分泌代謝内科	Ascites symptom inventory-7 is a valuable tool for evaluating the effectiveness of tolvaptan in patients with cirrhotic ascites.	Exp Ther Med. 2021 Jan; 21(1): 30(オンライン)	Original Article
22	Yaoi H, Shida Y, Kitazawa T, et al.	小児科	Activated factor VIII-mimicking effect by emicizumab on thrombus formation in type 2N von Willebrand disease under high shear flow conditions.	Thromb Res. 2021 Feb; 198: 7–16	Original Article
23	Shima M, Nagao A, Taki M, et al.	小児科	Long-term safety and efficacy of emicizumab for up to 5.8 years and patients' perceptions of symptoms and daily life: A phase 1/2 study in patients with severe haemophilia A.	Haemophilia. 2021 Jan; 27(1): 81–89	Original Article
24	Inoue T, Chihara Y, Kiba K, et al.	泌尿器科	Rapid multiplex PCR assay for simultaneous detection of Neisseria gonorrhoeae and Chlamydia trachomatis in genitourinary samples: A 30-minute assay.	J Microbiol Methods. 2021 Jan; 180: 106103(オンライン)	Original Article
25	Mabuchi S, Yamamoto M, Murata H, et al.	産婦人科	Bevacizumab-associated events in Japanese women with cervical cancer: a multi-institutional survey of Obstetrical Gynecological Society of Kinki district, Japan.	Int J Clin Oncol. 2021 Mar; 26(3): 598–605	Original Article
26	Suzuki D, Omokawa S, Iida A, et al.	整形外科	Biomechanical Effects of Radioscapholunate Fusion With Distal Scaphoidectomy and Triquetrum Excision on Dart-Throwing and Wrist Circumduction Motions.	J Hand Surg Am. 2021 Jan; 46(1): 71.e1–71.e7	Original Article
27	Yamada S, Nakagawa I, Nishimura F, et al.	脳神経外科	The Possibility of Intracranial Hypertension in Patients with Autism Spectrum Disorder Using Computed Tomography.	J Clin Med. 2020 Nov; 9(11): 3551(オンライン)	Original Article
28	Okada S, Samejima KI, Matsui M, et al.	腎臓内科	Microscopic hematuria is a risk factor for end-stage kidney disease in patients with biopsy-proven diabetic nephropathy.	BMJ Open Diabetes Res Care. 2020 Nov; 8(2): e001863	Original Article
29	Sawabata N, Nakamura T, Kawaguchi T, et al.	心臓血管外科	Circulating tumor cells detected only after surgery for non-small cell lung cancer: is it a predictor of recurrence?	J Thorac Dis. 2020 Sep; 12(9): 4623–4632	Original Article
30	Ishida K, Namisaki T, Murata K, et al.	消化器・内分泌代謝内科	Accuracy of Fibrosis-4 Index in Identification of Patients with Cirrhosis Who Could Potentially Avoid Variceal Screening Endoscopy.	J Clin Med. 2020 Oct; 9(11): 3510(オンライン)	Original Article
31	Hokuto D, Nomi T, Yoshikawa T, et al.	消化器外科・小児外科・乳腺外科	Preventative effects of ramelteon against postoperative delirium after elective liver resection.	PLoS One. 2020 Nov; 15(11): e0241673(オンライン)	Original Article
32	Sakai K, Someya T, Harada K, et al.	輸血部	Novel aptamer to von Willebrand factor A1 domain (TAGX-0004) shows total inhibition of thrombus formation superior to ARC1779 and comparable to caplacizumab.	Haematologica. 2020 Nov; 105(11): 2631–2638	Original Article
33	Park YS, Kogeichi Y, Haku T, et al.	脳神経外科	Hinge and floating decompressive craniotomy for infantile acute subdural hematoma: technical note.	Childs Nerv Syst. 2021 Jan; 37(1): 295–298	Original Article
34	Yonekawa S, Mizuno T, Nakano R, et al.	感染制御内科	Molecular and Epidemiological Characteristics of Carbapenemase-Producing Klebsiella pneumoniae Clinical Isolates in Japan.	mSphere. 2020 Oct; 5(5): e00490–20(オンライン)	Original Article
35	Itami H, Morita K, Nakai T, et al.	病理診断科	Gastritis cystica profunda is associated with aberrant p53 and Epstein-Barr virus in gastric cancer: A clinicopathological, immunohistochemical and in situ hybridization study.	Pathol Int. 2021 Jan; 71(1): 42–50	Original Article
36	Kitagawa K, Moriya K, Kaji K, et al.	消化器	Atorvastatin Augments Gemcitabine-Mediated Anti-Cancer Effects by Inhibiting Yes-Associated Protein in Human Cholangiocarcinoma Cells.	Int J Mol Sci. 2020 Oct; 21(20): 7588(オンライン)	Original Article
37	Ishii H, Nakajima H, Kamei N, et al.	消化器・内分泌代謝内科	Quality-of-Life Comparison of Dapagliflozin Versus Dipeptidyl Peptidase 4 Inhibitors in Patients with Type 2 Diabetes Mellitus: A Randomized Controlled Trial (J-BOND Study).	Diabetes Ther. 2020 Dec; 11(12): 2959–2977	Original Article
38	Haga M, Hirai T, Nakai T, et al.	放射線・核医学科	Evaluation of background parenchymal enhancement in breast contrast-enhanced ultrasound with Sonazoid®.	J Med Ultrason (2001). 2020 Oct; 47(4): 591–601	Original Article
39	Iemura Y, Hori S, Tatsumi Y, et al.	泌尿器科	Periprosthetic fat thickness quantified by preoperative magnetic resonance imaging is an independent risk factor for upstaging from cT1/2 to pT3 in robot-assisted radical prostatectomy.	Int J Urol. 2020 Dec; 27(12): 1144–1149	Original Article
40	Miyake M, Oda Y, Nishimura N, et al.	泌尿器科	Integrative assessment of clinicopathological parameters and the expression of PD-L1, PD-L2 and PD-1 in tumor cells of retroperitoneal sarcoma.	Oncol Lett. 2020 Nov; 20(5): 190	Original Article
41	Miyake M, Nishimura N, Fujii T, et al.	泌尿器科	Photodynamic Diagnosis-Assisted En Bloc Transurethral Resection of Bladder Tumor for Nonmuscle Invasive Bladder Cancer: Short-Term Oncologic and Functional Outcomes.	J Endourol. 2021 Mar; 35(3): 319–327	Original Article

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
42	Nakai Y, Tanaka N, Maesaka F, et al.	泌尿器科	Evaluating the optimal technique of transperineal template-guided saturation biopsy in patients requiring repeat prostate biopsy.	Int J Urol. 2020 Dec; 27(12): 1157–1158	Original Article
43	Soeda T, Okura H, Saito Y, et al.	循環器内科	Clinical characteristics and in-hospital outcomes in patients aged 80 years or over with cardiac troponin-positive acute myocardial infarction –J-MINUET study.	J Cardiol. 2021 Feb; 77(2): 139–146	Original Article
44	Yaoi H, Shida Y, Kitazawa T, et al.	小児科	Emicizumab Augments Thrombus Formation in Whole Blood from Patients with Hemophilia A under High Shear Flow Conditions.	Thromb Haemost. 2021 Mar; 121(3): 279–286	Original Article
45	Naruse K, Yamashita T, Onishi Y, et al.	産婦人科	High-Quality Transmission of Cardiotocogram and Fetal Information Using a 5G System: Pilot Experiment.	JMIR Med Inform. 2020 Sep; 8(9): e19744(オンライン)	Original Article
46	Nishiwada S, Sho M, Cui Y, et al.	消化器外科・小児外科・乳腺外科	A gene expression signature for predicting response to neoadjuvant chemoradiotherapy in pancreatic ductal adenocarcinoma.	Int J Cancer. 2021 Feb; 148(3): 769–779	Original Article
47	Kotsugi M, Nakagawa I, Hatakeyama K, et al.	脳神経外科	Lipid Core Plaque Distribution Using Near-infrared Spectroscopy Is Consistent with Pathological Evaluation in Carotid Artery Plaques.	Neurol Med Chir (Tokyo). 2020 Oct; 60(10): 499–506	Original Article
48	Omoto K, Nakagawa I, Nishimura F, et al.	脳神経外科	Computed tomography perfusion imaging after aneurysmal subarachnoid hemorrhage can detect cerebral vasospasm and predict delayed cerebral ischemia after endovascular treatment.	Surg Neurol Int. 2020 Aug; 11: 233(オンライン)	Original Article
49	Hayata Y, Sawabata N, Abe T, et al.	心臓血管外科	Improvement in Left Cardiac Function Following Mitral Valve Repair: Analyses Based on Cardiac Magnetic Resonance Imaging.	In Vivo. 2020 Sep; 34(5): 2897–2903	Original Article
50	Kubo M, Sakai K, Yoshii Y, et al.	輸血部	Rituximab prolongs the time to relapse in patients with immune thrombotic thrombocytopenic purpura: analysis of off-label use in Japan.	Int J Hematol. 2020 Dec; 112(6): 764–772	Original Article
51	Shimonishi N, Ogiwara K, Oda Y, et al.	小児科	A Novel Assessment of Factor VIII Activity by Template Matching Utilizing Weighted Average Parameters from Comprehensive Clot Waveform Analysis.	Thromb Haemost. 2021 Feb; 121(2): 164–173	Original Article
52	Kita Y, Watanabe M, Kamon D, et al.	循環器内科	Effects of Fatty Acid Therapy in Addition to Strong Statin on Coronary Plaques in Acute Coronary Syndrome: An Optical Coherence Tomography Study.	J Am Heart Assoc. 2020 Aug; 9(16): e015593	Original Article
53	Tanaka N, Asakawa I, Nakai Y, et al.	泌尿器科	Coverage of the external prostatic region by the hybrid method compared with the conventional method of prostate low-dose-rate brachytherapy: A randomized controlled study.	Int J Urol. 2020 Nov; 27(11): 1013–1017	Original Article
54	Kunishige T, Migita K, Matsumoto S, et al.	消化器外科・小児外科・乳腺外科	Ring box protein-1 is associated with a poor prognosis and tumor progression in esophageal cancer.	Oncol Lett. 2020 Sep; 20(3): 2919–2927	Original Article
55	Inoue K, Suenaga N, Oizumi N, et al.	整形外科	Glenoid bone resorption after Bankart repair: finite element analysis of postoperative stress distribution of the glenoid.	J Shoulder Elbow Surg. 2021 Jan; 30(1): 188–193	Original Article
56	Nishimura T, Hosoi H, Saito O, et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Sound localisation ability using cartilage conduction hearing aids in bilateral aural atresia.	Int J Audiol. 2020 Dec; 59(12): 891–896	Original Article
57	Morizawa Y, Aoki K, Hori S, et al.	泌尿器科	Is Endoscopic Transurethral Incision Really Effective for Boys with Refractory Daytime Incontinence?	Res Rep Urol. 2020 Jul; 12: 273–277(オンライン)	Original Article
58	Tsuji Y, Namisaki T, Kaji K, et al.	消化器・内分泌代謝内科	Comparison of serum fibrosis biomarkers for diagnosing significant liver fibrosis in patients with chronic hepatitis B.	Exp Ther Med. 2020 Aug; 20(2): 985–995	Original Article
59	Ichihashi S, Desormais I, Hashimoto T, et al.	放射線・核医学科	Accuracy and Reliability of the Ankle Brachial Index Measurement Using a Multicuff Oscillometric Device Versus the Doppler Method.	Eur J Vasc Endovasc Surg. 2020 Sep; 60(3): 462–468	Original Article
60	Saito K, Abe S, Kumamoto M, et al.	脳神経内科	Blood Flow Visualization and Wall Shear Stress Measurement of Carotid Arteries Using Vascular Vector Flow Mapping.	Ultrasound Med Biol. 2020 Oct; 46(10): 2692–2699	Original Article
61	Ogiwara K, Nogami K, Matsumoto N, et al.	小児科	A modified thrombin generation assay to evaluate the plasma coagulation potential in the presence of emicizumab, the bispecific antibody to factors IXa/X.	Int J Hematol. 2020 Nov; 112(5): 621–630	Original Article
62	Saito N, Tanaka T, Nishiohuku H, et al.	放射線・核医学科	Transarterial chemoembolization remains an effective therapy for intermediate-stage hepatocellular carcinoma with preserved liver function.	Hepatol Res. 2020 Oct; 50(10): 1176–1185	Original Article
63	Eura N, Saito K, Shimizu H, et al.	脳神経内科	A thromboembolic mechanism in bow hunter's stroke: Importance of hemodynamic evaluation by ultrasonography during head rotation.	eNeurologicalSci. 2020 Sep; 20: 100254(オンライン)	Original Article
64	Ishida Y, Shigematsu H, Tsukamoto S, et al.	リハビリテーション科	Impairment-driven cancer rehabilitation in patients with neoplastic spinal cord compression using minimally invasive spine stabilization.	World J Surg Oncol. 2020 Jul; 18(1): 187(オンライン)	Original Article

小計22件

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
65	Yada N, Yoshimoto K, Kawashima H, et al.	総合診療科	Plasma Level of von Willebrand Factor Propeptide at Diagnosis: A Marker of Subsequent Renal Dysfunction in Autoimmune Rheumatic Diseases.	Clin Appl Thromb Hemost. 2020 Jul; 26: 1076029620938874	Original Article
66	Miyazaki A, Negishi J, Hayama Y, et al.	先天性心疾患センター	Etiology of atrial fibrillation in patients with complex congenital heart disease – for a better treatment strategy.	J Cardiol. 2020 Nov; 76(5): 438–445	Original Article
67	Park YS, Kotani Y, Kim TK, et al.	脳神経外科	Efficacy and safety of intraventricular fibrinolytic therapy for post-intraventricular hemorrhagic hydrocephalus in extreme low birth weight infants: a preliminary clinical study.	Childs Nerv Syst. 2021 Jan; 37(1): 69–79	Original Article
68	Nakajima Y, Yada K, Ogiwara K, et al.	小児科	A microchip flow-chamber assay screens congenital primary hemostasis disorders.	Pediatr Int. 2021 Feb; 63(2): 160–167	Original Article
69	Miyake M, Tanaka N, Asakawa I, et al.	泌尿器科	A prospective study of oral 5-aminolevulinic acid to prevent adverse events in patients with localized prostate cancer undergoing low-dose-rate brachytherapy: Protocol of the AMBER study.	Contemp Clin Trials Commun. 2020 Jun; 19: 100593(オンライン)	Original Article
70	Nakaue K, Horita S, Imada M, et al.	歯科口腔外科	Study of Treatment Methods for Surrounding Soft Tissues of Implants Following Mandibular Reconstructions with Fibula-Free Flaps.	Dent J (Basel). 2020 Jul; 8(3): 67(オンライン)	Original Article
71	Ueda T, Morita K, Koyama F, et al.	消化器外科・小児外科・乳腺外科	A detailed comparison between the endoscopic images using blue laser imaging and three-dimensional reconstructed pathological images of colonic lesions.	PLoS One. 2020 Jun; 15(6): e0235279(オンライン)	Original Article
72	Nakai Y, Tanaka N, Asakawa I, et al.	泌尿器科	Biochemical control of the combination of cyclooxygenase-2 inhibitor and (125) I-brachytherapy for prostate cancer: Post hoc analysis of an open-label controlled randomized trial.	Int J Urol. 2020 Sep; 27(9): 755–759	Original Article
73	Hayami N, Omokawa S, Kira T, et al.	整形外科	Biomechanical analysis of simultaneous distal and proximal radio-ulnar joint instability.	Clin Biomech (Bristol, Avon). 2020 Aug; 78: 105074	Original Article
74	Kawaratani H, Tsuji Y, Ishida K, et al.	消化器・内分泌代謝内科	Effect of three or more treatments with lusutrombopag in patients with cirrhotic thrombocytopenia: A retrospective single-center study.	Hepatol Res. 2020 Sep; 50(9): 1101–1105	Original Article
75	Matsuda R, Tamamoto T, Sugimoto T, et al.	放射線治療科	Linac-based fractionated stereotactic radiotherapy with a micro-multileaf collimator for large brain metastasis unsuitable for surgical resection.	J Radiat Res. 2020 Jul; 61(4): 546–553	Original Article
76	Sawada Y, Shiraki M, Iwasa M, et al.	消化器・内分泌代謝内科	The effects of diuretic use and the presence of ascites on muscle cramps in patients with cirrhosis: a nationwide study.	J Gastroenterol. 2020 Sep; 55(9): 868–876	Original Article
77	Fukushima H, Asai H, Seki T, et al.	救急科	The effect of 10-min dispatch-assisted cardiopulmonary resuscitation training: a randomized simulation pilot study.	Int J Emerg Med. 2020 Jun; 13(1): 31(オンライン)	Original Article
78	Miyazaki A, Matsutani H, Nakano Y, et al.	先天性心疾患センター	CRT in a congenital heart disease patient with interventricular dyssynchrony due to an RV conduction delay.	Pacing Clin Electrophysiol. 2020 Sep; 43(9): 1051–1057	Original Article
79	Nakagawa I, Park H, Kotsugi M, et al.	脳神経外科	Elective carotid stenting after urgent best medical treatment suppresses recurrent stroke in patients with symptomatic carotid artery severe stenosis.	Clin Neurol Neurosurg. 2020 Aug; 195: 105855	Original Article
80	Ommori R, Nakamura Y, Miyagawa F, et al.	皮膚科	Reduced induction of human β -defensins is involved in the pathological mechanism of cutaneous adverse effects caused by epidermal growth factor receptor monoclonal antibodies.	Clin Exp Dermatol. 2020 Dec; 45(8): 1055–1058	Original Article
81	Shugyo M, Ito T, Shiozaki T, et al.	耳鼻咽喉・頭頸部外科	Comparison of the video head impulse test results with caloric test in patients with Meniere's disease and other vestibular disorders.	Acta Otolaryngol. 2020 Sep; 140(9): 728–735	Original Article
82	Shimizu T, Miyake M, Hori S, et al.	泌尿器科	Clinical Impact of Sarcopenia and Inflammatory/Nutritional Markers in Patients with Unresectable Metastatic Urothelial Carcinoma Treated with Pembrolizumab.	Diagnostics (Basel). 2020 May; 10(5): 310(オンライン)	Original Article
83	Takaya H, Namisaki T, Sato S, et al.	消化器・内分泌代謝内科	Increased Endotoxin Activity Is Associated with the Risk of Developing Acute-on-Chronic Liver Failure.	J Clin Med. 2020 May; 9(5): 1467(オンライン)	Original Article
84	Nogi M, Kawakami R, Ishihara S, et al.	循環器内科	Low Insulin Is an Independent Predictor of All-Cause and Cardiovascular Death in Acute Decompensated Heart Failure Patients Without Diabetes Mellitus.	J Am Heart Assoc. 2020 May; 9(10): e015393	Original Article
85	Nakajima Y, Nogami K, Yada K, et al.	小児科	Emicizumab Improves Ex Vivo Clotting Function in Patients with Mild/Moderate Hemophilia A.	Thromb Haemost. 2020 Jun; 120(6): 968–976	Original Article
86	Nishiwada S, Sho M, Banwait JK, et al.	消化器外科・小児外科・乳腺外科	A MicroRNA Signature Identifies Pancreatic Ductal Adenocarcinoma Patients at Risk for Lymph Node Metastases.	Gastroenterology. 2020 Aug; 159(2): 562–574	Original Article
87	Kamitani N, Nomi T, Hokuto D, et al.	消化器外科・小児外科・乳腺外科	Influence of the Glissonean Pedicle Transection Approach in Spiegel Lobe-Preserving Left Hepatectomy on Spiegel Lobe Volume and Remnant Liver Functions.	World J Surg. 2020 Sep; 44(9): 3079–3085	Original Article

小計22件

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
88	Furukawa M, Moriya K, Nakayama J, et al.	消化器・内分泌代謝内科	Gut dysbiosis associated with clinical prognosis of patients with primary biliary cholangitis.	Hepatol Res. 2020 Jul; 50(7): 840–852	Original Article
89	Yoshikawa T, Obayashi K, Miyata K, et al.	眼科	Decreased melatonin secretion in patients with glaucoma: Quantitative association with glaucoma severity in the LIGHT study.	J Pineal Res. 2020 Sep; 69(2): e12662	Original Article
90	Nishi T, Ueda T, Mizusawa Y, et al.	眼科	Effect of optical correction on choroidal structure in children with anisohypermetropic amblyopia.	PLoS One. 2020 Apr; 15(4): e0231903(オンライン)	Original Article
91	Nakazawa T, Natsume A, Nishimura F, et al.	脳神経外科	Effect of CRISPR/Cas9-Mediated PD-1-Disrupted Primary Human Third-Generation CAR-T Cells Targeting EGFRvIII on In Vitro Human Glioblastoma Cell Growth.	Cells. 2020 Apr; 9(4): 998(オンライン)	Original Article
92	Ueda N, Imai Y, Yamakawa N, et al.	歯科口腔外科	Assessment of facial symmetry by three-dimensional stereophotogrammetry after mandibular reconstruction: A comparison with subjective assessment.	J Stomatol Oral Maxillofac Surg. 2021 Feb; 122(1): 56–61	Original Article
93	Sakai K, Kuwana M, Tanaka H, et al.	輸血部	HLA loci predisposing to immune TTP in Japanese: potential role of the shared ADAMTS13 peptide bound to different HLA-DR.	Blood. 2020 Jun; 135(26): 2413–2419	Original Article
94	Miyake M, Matsuyama H, Teramukai S, et al.	泌尿器科	A new risk stratification model for intravesical recurrence, disease progression, and cancer-specific death in patients with non-muscle invasive bladder cancer: the J-NICE risk tables.	Int J Clin Oncol. 2020 Jul; 25(7): 1364–1376	Original Article
95	Kawasaki S, Shigematsu H, Tanaka M, et al.	整形外科	Segmental Flexibility in Adolescent Idiopathic Scoliosis Assessed Using the Fulcrum-bending Radiography Method.	Clin Spine Surg. 2020 Oct; 33(8): E376–E380	Original Article
96	Tsuruya K, Kanda E, Nomura T, et al.	腎臓内科	Postdialysis blood pressure is a better predictor of mortality than predialysis blood pressure in Japanese hemodialysis patients: the Japan Dialysis Outcomes and Practice Patterns Study.	Hypertens Res. 2020 Aug; 43(8): 791–797	Original Article
97	Furukawa S, Nogami K, Shimonishi N, et al.	小児科	Prediction of the haemostatic effects of bypassing therapy using comprehensive coagulation assays in emicizumab prophylaxis-treated haemophilia A patients with inhibitors.	Br J Haematol. 2020 Sep; 190(5): 727–735	Original Article
98	Shimonishi N, Nogami K, Ogiwara K, et al.	小児科	Emicizumab improves the stability and structure of fibrin clot derived from factor VIII-deficient plasma, similar to the addition of factor VIII.	Haemophilia. 2020 May; 26(3): e97–e105	Original Article
99	Tatsumoto S, Itoh T, Takahama J, et al.	放射線・核医学科	Accuracy of magnetic resonance imaging in predicting dentate line invasion in low rectal cancer.	Jpn J Radiol. 2020 Jun; 38(6): 539–546	Original Article
100	Kawasaki S, Shigematsu H, Tanaka M, et al.	整形外科	Is brace treatment unnecessary for cases of adolescent idiopathic scoliosis above Risser sign 3?	J Orthop Sci. 2020 Nov; 25(6): 975–979	Original Article
101	Ishii H, Shuichi S, Williams P, et al.	医師・患者関係学	Cross-sectional survey in patients with type 1 and type 2 diabetes to understand mealtime insulin unmet needs in Japan: The MINUTES-J study.	Diabetes Res Clin Pract. 2020 Apr; 162: 108076(オンライン)	Original Article
102	Hasegawa H, Shimizu T, Omokawa S, et al.	整形外科	Vascularized pedicled bone graft from the distal radius supplied by the anterior interosseous artery for treatment of ulnar shaft nonunion: An anatomical study of cadavers and a case report.	Microsurgery. 2020 May; 40(4): 479–485	Original Article
103	Sawabata N, Susaki Y, Nakamura T, et al.	心臓血管外科	Cluster circulating tumor cells in surgical cases of lung cancer.	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2020 Sep; 68(9): 975–983	Original Article
104	Ochi S, Takeyama M, Shima M, et al.	小児科	Plasma-derived factors VIIa and X mixtures (Byclot®)) significantly improve impairment of coagulant potential ex vivo in plasmas from acquired hemophilia A patients.	Int J Hematol. 2020 Jun; 111(6): 779–785	Original Article
105	Okuda A, Shigematsu H, Fujii H, et al.	整形外科	Reliability Comparison between “Distal Radius and Ulna” and “Simplified Tanner-Whitehouse III” Assessments for Patients with Adolescent Idiopathic Scoliosis.	Asian Spine J. 2020 Jun; 14(3): 280–286	Original Article
106	Takeyama M, Nogami K, Matsumoto T, et al.	小児科	An anti-factor IXa/factor X bispecific antibody, emicizumab, improves ex vivo coagulant potentials in plasma from patients with acquired hemophilia A.	J Thromb Haemost. 2020 Apr; 18(4): 825–833	Original Article
107	Takahashi M, Kitamura S, Matsuoka K, et al.	精神科	Uncinate fasciculus disruption relates to poor recognition of negative facial emotions in Alzheimer’s disease: a cross-sectional diffusion tensor imaging study.	Psychogeriatrics. 2020 May; 20(3): 296–303	Original Article
108	Tsukamoto S, Zucchini R, Staals EL, et al.	整形外科	Incomplete resection increases the risk of local recurrence and negatively affects functional outcome in patients with tenosynovial giant cell tumor of the hindfoot.	Foot Ankle Surg. 2020 Oct; 26(7): 822–827	Original Article
109	Yamamoto Y, Iwata E, Shigematsu H, et al.	整形外科	Differential diagnosis between metastatic and osteoporotic vertebral fractures using sagittal T1-weighted magnetic resonance imaging.	J Orthop Sci. 2020 Sep; 25(5): 763–769	Original Article
110	Kataoka H, Sawada Y, Shimozato N, et al.	脳神経内科	Levodopa-responsive retrocollis on the background of choreic dyskinesia.	Int J Neurosci. 2020 May; 130(5): 461–463	Original Article

小計22件

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
111	Tsuji Y, Kawaratani H, Ishida K, et al.	消化器・内分泌代謝内科	Effectiveness of Lusutrombopag in Patients with Mild to Moderate Thrombocytopenia.	Dig Dis. 2020 Jul; 38(4): 329-334	Original Article
112	Nakagawa I, Park HS, Kotsugi M, et al.	脳神経外科	Delayed Intracranial Parenchymal Changes After Aneurysmal Coil Embolization Procedures for Unruptured Intracranial Aneurysms.	Oper Neurosurg (Hagerstown). 2020 Jul; 19(1): 76-83	Original Article
113	Muro S, Yoshisue H, Kostikas K, et al.	呼吸器内科	Indacaterol/glycopyrronium versus tiotropium or glycopyrronium in long-acting bronchodilator-naïve COPD patients: A pooled analysis.	Respirology. 2020 Apr; 25(4): 393-400	Original Article
114	Wakatsuki K, Matsumoto S, Migita K, et al.	消化器外科・小児外科・乳腺外科	Risk Factors and Risk Scores for Predicting Early Recurrence After Curative Gastrectomy in Patients with Stage III Gastric Cancer.	J Gastrointest Surg. 2020 Aug; 24(8): 1758-1769	Original Article
115	Yasuda S, Nomi T, Hokuto D, et al.	消化器外科・小児外科・乳腺外科	Liver Regeneration After Major Liver Resection for Hepatocellular Carcinoma in the Elderly.	J Invest Surg. 2020 Apr; 33(4): 332-338	Original Article

小計9件/
合計115
件

- 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること（筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。）
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月（原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない）；巻数：該当ページ」の形式で記載すること
（出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月（オンライン掲載月）の後に（オンライン）と明記すること）
記載例： Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec（オンライン）
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文（任意）

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1					
2					
3					

(注)

- 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを入力すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	☒ 有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	☒ 有・無
・ 手順書の主な内容 委員会の構成、責務、審査とその判定、審査書類の準備と手続き、事務局業務について	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 1 1 回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	☒ 有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	☒ 有・無
・ 規定の主な内容 目的、適用範囲、利益相反管理委員会、自己申告書の提出、委員会における審査等	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 1 2 回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 2 0 回
・ 研修の主な内容 人を対象とする医学系研究及びヒトゲノム・遺伝子解析研究を実施するために必要な倫理課題等について（指針の概要、被験者保護、統計分析方法等）	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

各診療科が総合的な臨床力を重視するとともにさまざまな専門医養成コースを準備しており、複数科連携プログラムも稼働している。このため各人がそれぞれのニーズに合わせてキャリアデザインを組むことが可能となっている。

内科各科の連携は密接で内科合同カンファランスを定期的を開催するとともに、総合内科専門医養成コースを設けている。

さらに、附属病院として、緩和ケアを含むがん薬物療法および放射線治療に関する知識・技術を修得した総合的ながん専門医を養成するためのプログラムを策定し、「がん薬物療法専門医」養成コースも設けている。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	118人
-------------	------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
斎藤 能彦	循環器内科	教授	40年	
室 繁郎	呼吸器・アレルギー・血液内科	教授	32年	
吉治 仁志	消化器・内分泌代謝内科	教授	34年	
杉江 和馬	脳神経内科	教授	26年	
庄 雅之	消化器外科・小児外科・乳腺外科	教授	30年	
中瀬 裕之	脳神経外科	教授	38年	
谷口 繁樹	心臓血管外科	教授	39年	
田中 康仁	整形外科	教授	37年	リウマチ科も兼ねる
川口 龍二	産婦人科	准教授	24年	
緒方 奈保子	眼科	教授	38年	
吉川 公彦	小児科	病院長	41年	
岸本 年史	精神科	教授	40年	
浅田 秀夫	皮膚科	教授	37年	
藤本 清秀	泌尿器科	教授	34年	
北原 紘	耳鼻咽喉・頭頸部外科	教授	29年	内分泌外科も兼ねる
吉川 公彦	放射線・核医学科	病院長	41年	
長谷川 正俊	放射線治療科	教授	39年	
川口 昌彦	麻酔科	教授	33年	
西尾 健治	総合診療科	教授	39年	
桐田 忠昭	歯科口腔外科	教授	38年	

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
福島 英賢	救急科	教授	25年	
笠原 敬	感染制御内科	准教授	22年	
桑原 理充	形成外科	病院教授	25年	
城戸 顕	リハビリテーション科	病院教授	30年	
大林 千穂	病理診断科	教授	38年	
澤端 章好	呼吸器外科	准教授	32年	
鶴屋 和彦	腎臓内科	教授	30年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
管理責任者氏名	病院長 吉川 公彦	
管理担当者氏名	経営企画課長 樋口 浩史、医療サービス課長 鶴谷 幸彦、病院管理課長 奥田 稔、医療相談室長 久保 良佳	

		保 管 場 所	管 理 方 法
診療に関する諸記録	規則第二十一条の第三第二項に掲げる事項	病院日誌	個々の患者諸記録は電子カルテで一括管理 診療録の院外への持ち出しについては診療録取扱内規により禁止されている。
		各科診療日誌	
		処方せん	
		手術記録	
		看護記録	
		検査所見記録	
		エックス線写真	
		紹介状	
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二条の第三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	各所属が簿冊またはデータで管理している。 持ち出しは、原則禁止している。
		高度の医療の提供の実績	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	
		高度の医療の研修の実績	
		閲覧実績	
		紹介患者に対する医療提供の実績	
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	
	規則第一条の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	各所属が簿冊またはデータで管理している。 持ち出しは、原則禁止している。
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	

			保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染管理室	各所属が簿冊またはデータで管理している。持ち出しは、原則禁止している。
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染管理室	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染管理室	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染管理室	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬剤部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	医療技術センター	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療安全推進室 医療技術センター	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医療安全推進室 医療技術センター	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全推進室 医療技術センター	

		保 管 場 所	管 理 方 法	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全推進室	各所属が簿冊またはデータで管理している。持ち出しは、原則禁止している。
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染管理室	
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部	
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全推進室	
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医療情報部	
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全推進室	
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療サービス課及び生命倫理監理室	
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療サービス課及び生命倫理監理室	
		監査委員会の設置状況	病院管理課	
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全推進室	
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全推進室	
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療相談室	
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全推進室	
		職員研修の実施状況	医療安全推進室	
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全推進室	
		管理者が有する権限に関する状況	人事課	
		管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	経営企画課	
		開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務課	

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
閲覧責任者氏名	病院長 吉川 公彦	
閲覧担当者氏名	経営企画課長 樋口 浩史、医療サービス課長 鶴谷 幸彦、病院管理課長 奥田 稔、医療相談室長 久保 良佳	
閲覧の求めに応じる場所	各執務室	
閲覧の手続の概要		
「公立大学法人奈良県立医科大学個人情報取扱規程」を準用した開示(閲覧)手続による。		
(診療録等個人情報を含む場合)		
1. 開示(閲覧)請求		
↓		
2. 法人内部での決裁		
↓		
3. 総合窓口(県 総務部総務課)への協議		
↓		
4. 決定		
↓		
5. 開示(閲覧)		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0件
閲覧者別	医師	延	0件
	歯科医師	延	0件
	国	延	0件
	地方公共団体	延	0件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11 第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	☒ 有・無
・ 指針の主な内容：医療事故の予防・再発防止対策ならびに発生時の適切な対策など、本院における医療安全管理体制を確立し、適切かつ安全で質の高い医療サービスの提供を図ることを目的とした内容になっている。 患者に信頼される医療サービスの提供と医療の質的向上を求めていくことを安全管理に関する基本姿勢とし、医療安全管理体制の構築（医療安全管理委員会、医療安全推進室の設置等）、医療安全管理のための院内報告制度等の構築、医療事故発生時の対応方法の確立、職員に対する安全教育・研修の実施等について記している。	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況 ・ 設置の有無（ ☒有・無 ） ・ 開催状況：年 12 回 ・ 活動の主な内容：医療安全推進室の活動報告および重要案件の審議等を行う。	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 19 回
・ 研修の内容（すべて）： 「医薬品安全管理研修Ⅰ」「医療に関する法的責任概要」「カルテ記載の重要性」「同意能力と意思決定プロセス」「医療行為前の説明義務」「心理的安全性と現場に心理的安全性がないとき！」「心理的安全性の歴史と現場に心理的安全性があるとき！」「2019年度インシデント報告の総括」「副作用報告について」「麻薬の取り扱いおよび管理について」「RST総論」「危険なバイタルサインに気付こう」「TQMの概念と実践」「医療機器・放射線安全管理」「ME機器の安全な使用について」「死亡診断書の正しい記載の仕方」「TeamSTEPPS研修」「インシデント報告について」「診療録・看護記録の重要性」	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況 ・ 医療機関内における事故報告等の整備（ ☒有・無 ） ・ その他の改善のための方策の主な内容： ①事故報告…リスクマネージャー会議で事故報告の実施・推進を周知し、各部署へ伝達してもらう。ほかに、研修案内一斉メールでお知らせとして周知。研修会開始前にスライドで周知。中途採用者対象DVDで周知。 インシデント・アクシデント報告を全例チェックし、疑義のあるものは室ミーティング、医療安全管理委員会で審議・対応している。死亡報告、オカレンス報告も全例チェックし、事故性の有無を確認し、事故が疑われるものはインシデント・アクシデント報告と同様の対応をしている。（死亡報告は、報告漏れの確認を死亡退院患者一覧との引き合わせで行い、報告がない事例については報告を促している） ②その他…○各部署宛に、報告の中で周知が必要と思われる内容を「医療安全ニュース」（医療安全推進室作成）として毎月配付するほか、医療安全情報（	

医療機能評価機構）も毎月配付している。
○認定病院患者安全協議会主催の研修会等の案内を対象部署に案内している。
○分析・対策検討会議でインシデント、アクシデントの原因分析と対策立案を行い、医療安全管理委員会、病院運営協議会で承認を得て実施し、検証を行っている。
○内部通報窓口とは別に、2020年3月より稼働している新インシデント報告システムに「オカレンス報告」を作り、インシデント、アクシデントには至らなかったが、気になったことを報告してもらっている。
○院内ラウンドを実施して、実態把握と改善指導を行っている。

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
・ 指針の主な内容：①院内感染対策に関する基本的考え方、②感染対策のための委員会その他の当該病院等の組織に関する基本的事項、③院内感染対策のための従事者に対する研修に関する基本方針、④感染症の発生状況の報告に関する基本方針、⑤院内感染発生時の対応に関する基本方針、⑥患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針、⑦その他の当該病院等における院内感染対策の推進のために必要な基本方針等、その他感染対策を推進するために必要な基本方針を記載している。	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
・ 活動の主な内容：病院長、感染症センター長、感染管理室長、看護部長、薬剤部長、中央臨床検査部長、病院経営部長、ICD、ICNなど職種横断的に構成しており、委員は21名。毎月1回開催している。また、耐性菌の検出状況や抗菌薬適正使用に係る活動内容及び使用量の状況報告、状況、針刺し事故事例や医療関連感染事例や、従業員に対する研修の実施状況などを報告している。医療関連感染事例の対応や本指針、感染対策に関するマニュアル等の制定・改廃の承認についての審議および意思決定を行っている。	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年4回
・ 研修の内容（すべて）： 職員に感染対策として周知・徹底したい知識や情報等をテーマとして、全職員対象に研修を実施している。令和2年度は集合研修として1種類の内容で20回研修を実施した。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点からE-learningの受講を推奨した。Office365のSharePointを活用し、感染対策関連のコンテンツは2種類、抗菌薬の適正使用に関する内容は2種類、合計4種類のコンテンツをアップロードした。受講対象となる職員にはE-learningの受講を推奨したが、インターネット環境が整っていない職員を対象に救済措置として動画視聴研修を（集合研修にて）開催した。また、新型コロナ感染症患者の対応をする職種（医師、看護師、臨床工学技士等）を対象に、防護用具の着脱練習をし、実践に活かすため体験型の講義内容も企画した。未受講者をなくすために所属長、ICT委員宛に未受講者一覧を配布し、年間2回以上受講するよう啓蒙を行っている。 またこれとは別に、新規採用および中途採用職員には入職時に人事課と協働で研修会（動画視聴またはE-learningにて対応）を開催し、参加できない職員にはDVD貸出による研修を実施し、当院における感染対策に関する基礎知識の定着と感染対策の推進を行っている。	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
・ 病院における発生状況の報告等の整備（有・無） ・ その他の改善のための方策の主な内容：病院長を含む病院運営協議会のメンバーを中心とした感染防止委員会（ICC委員会）および医師、看護師、コメディカル、事務等の各所属から代表者を選出して構成するICT委員会をそれぞれ月1回開催し、院内における感染症の発生状況やその対策について報告し、周知徹底を行っている。 さらに、これらのメンバーを中心としたメーリングリストを作成し、「感染対策週報」として感染管理室長から毎週メールを配信することにより、当院における感染症発生状況を中心に、県内における感染症発症状況等の情報発信と情報共有を行っている。 他にもICTメンバーによる週2回の環境ラウンド（集中ラウンド・全病棟ラウンド）、抗菌薬ラウンド（毎日）、耐性菌ラウンド（耐性菌検出時）、ICTミーティング（毎日）、ASTミーティング（毎日）など様々な方策で感染対策および抗菌薬適正使用に係る、推進・充実に向けた取り組みを行っている。	

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11 第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	☒ 有 ・ 無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
・ 研修の主な内容： e ラーニング：R2年10月1日より・副作用報告について e ラーニング：R2年10月1日より・麻薬の取り扱い及び管理について	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	・ 手順書の作成 (☒ 有 ・ 無) ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： 医師、看護師のリスクマネージャーに対し、各所属での手順実施状況を確認し薬剤部へ報告 薬剤部についても、まとめて確認を実施
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (☒ 有 ・ 無) ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： ・ その他の改善のための方策の主な内容： 病棟担当薬剤師や調剤室の薬剤師から得られた情報や、医療サービス課からの査定情報、厚生労働省およびPMDAからの通知や医薬品安全情報などから情報を入手し、必要に応じて医薬品情報管理係よりDIニュース等で薬剤部から情報を発信する。未承認等の医薬品の使用の情報については生命倫理監理室と情報を共有している。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	☒ ・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年44回
・ 研修の主な内容： 1年間のWEB研修 人工呼吸と医療安全 1年間のWEB研修 危険なバイタルサインに気付こう -Prevent in-hospital preventable death 2020- 1年間のWEB研修 医療機器・放射線安全管理 MRI装置の安全管理 1年間のWEB研修 医療機器・放射線安全管理 安全なMRI検査のために 1年間のWEB研修 医療機器・放射線安全管理 放射線の安全管理 ～放射線と放射能の違いって？～ 1年間のWEB研修 ME機器の安全な使用について 1年間のWEB研修 医療放射線安全研修 適宜、病棟・部署単位での勉強会の実施 合計37件（内、新規機器研修 0件） 1. 新規・中途採用職員研修 0件 2. 新規導入機器研修 0件 3. 特に安全使用に際して技術の習熟が必要と考えられる機器の研修 (1) 人工心肺装置及び補助循環装置 1件 (2) 人工呼吸器 18件 (3) 血液浄化装置 0件 (4) 除細動装置（AEDを除く） 2件 (5) 閉鎖式保育器 2件 (6) 診療用高エネルギー放射線発生装置 4件 (7) 診療用粒子線照射装置 0件 (8) 診療用放射線照射装置 2件 4. 上記以外のもの研修 8件	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	・ 医療機器に係る計画の策定 （☒・無） ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： 人工心肺関連機器（補助循環装置）人工呼吸器、透析関連機器、除細動器（AED）、閉鎖式保育器、電気メス、麻酔器、高エネルギー放射線発生装置、診療用放射線照射装置、CTエックス線装置（医用X線CT装置）磁気共鳴画像診断装置（MRI装置）の定期点検の実施
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	・ 医療機器に係る情報の収集の整備 （☒・無） ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）： ・ その他の改善のための方策の主な内容： 医療安全推進室とともに、PMDAや日本医療機能評価機構・医療機器センターからの回収情報、インシデント情報、業者からの報告情報を収集し、院内職員への注意喚起、情報共有を行っている。

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	☒ 有・無
・ 責任者の資格（医師・歯科医師） ・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況 医療安全管理部門：医療安全推進室より必要に応じ報告する。 医療安全管理委員会：副委員長として参加。 医薬品安全管理責任者：医薬品安全管理会議の報告をする。 医療機器安全管理責任者：改正医療法に基づき、特定機能病院における医療機器関連の保守点検の計画・実施の報告を行う。医療機器安全管理会議の報告をする。	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	☒ 有（8名）・無
③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況 ・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 医薬品情報管理係にて、病棟薬剤師からの副作用等の情報を入手、医事データや電子カルテデータからは使用量や査定情報を入手、ヒヤリハット報告などの情報を取得し、必要に応じて医薬品情報管理係よりD I ニュース等で薬剤部から情報を発信する。 ・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 病棟薬剤師や調剤担当の薬剤師より情報を入手、未承認等の医薬品を使用された医師には生命倫理監理室に申請を促し、医薬品情報管理係に情報を集約。医薬品情報管理係は生命倫理監理室と情報を共有しているので、審査で可決されたものは病棟薬剤師や調剤係と情報共有する。 ・ 担当者の指名の有無（☒有・無） ・ 担当者の所属・職種： （所属：薬剤部， 職種 薬剤師） （所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ）	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	☒ 有・無
・ 医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 （ ☒有・無 ） ・ 説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内	

容：平成 29 年 7 月制定の「インフォームドコンセントマニュアル」で定めた方法により、説明・同意書が作成されているかの確認を、月 1 回開催している同意書等審議委員会において審議している。また、適切に実施されるよう医療従事者への指導等を実施した。

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況

☒ 有・無

・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：

【診療録の記載内容の確認】

各診療科別に、任意に抽出した患者の診療録の内容をチェックリストに基づき点検を行い、点検結果を診療科にフィードバックした。

【指導内容の主な内容】

- ・退院サマリーの考察・アレルギー・家族歴の記載なし
- ・医学的以外の患者の問題記載なし
- ・インフォームドコンセントでは、同意書の患者からの質問と回答記載なし
- ・他科共観記載なし

⑥ 医療安全管理部門の設置状況

☒ 有・無

・所属職員：専従（7）名、専任（0）名、兼任（3）名

うち医師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（1）名

うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（ ）名

うち看護師：専従（3）名、専任（ ）名、兼任（ ）名

（注）報告書を提出する年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること

・活動の主な内容：

- ・医療安全管理のための基本方針の策定及び変更に関すること。
- ・医療事故及びインシデントに関する診療録及び看護記録等の記載事項の確認と指導に関すること。
- ・医療事故等の発生時における患者又は家族等への対応状況の確認及び指導に関すること。
- ・医療事故等の原因究明が適切に実施されていることの確認と必要な指導に関すること。
- ・医療事故等の分析と安全管理に係る改善策に関すること。
- ・医療事故等の改善策の実施状況の評価、再発防止に向けての検討に関すること。
- ・医療安全に係る情報提供及び連絡調整に関すること。
- ・患者等や職員からの医療・診察の安全に関する相談及び連絡調整に関すること。

- ・ リスクマネージャーによる医療安全推進活動に関すること。
- ・ 肺血栓塞栓症予防体制の確立に向けた活動に関すること。
- ・ 呼吸サポートチームの活動の調整、記録物等の保管に関すること。
- ・ 医薬品安全管理に関すること。
- ・ 医療機器安全管理に関すること。
- ・ その他医療安全対策の推進に関すること。

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（7 件）、及び許可件数（5 件）
- ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（ ☒ 有 ・ 無 ）
- ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（ ☒ 有 ・ 無 ）
- ・ 活動の主な内容：

高度新規医療評価部が、高難度新規医療技術等の先進医療等の提供の適否を決定している。

診療科から高難度新規医療技術等の先進医療等の提供実施の申請があった場合、同部は高難度新規医療技術評価委員会に諮問し、同委員会が倫理的・科学的な妥当性や本院で提供することの適切性等に関して評価を行い、その評価結果に基づき、同部が提供の適否等を決定している。
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ ☒ 有 ・ 無 ）
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（ ☒ 有 ・ 無 ）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（15 件）、及び許可件数（11 件）
- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（ ☒ 有 ・ 無 ）
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の

有無（ ☒ 有 ・ 無 ）

・ 活動の主な内容：

高度新規医療評価部が、未承認新規医薬品等を用いた先進医療等の提供の適否を決定している。
診療科から未承認新規医薬品等を用いた先進医療等の提供実施の申請があった場合、同部は未承認新規医薬品等技術評価委員会に諮問し、同委員会が倫理的・科学的な妥当性や本院で提供することの適切性等に関して評価を行い、その評価結果に基づき、同部が提供の適否等を決定している。

・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（ ☒ 有 ・ 無 ）

・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（ ☒ 有 ・ 無 ）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 625 件（令和2年度）

・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 82 件（令和2年度）

・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

医療安全推進室の活動報告および重要案件の審議等を行う。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

・ 他の特定機能病院等への立入り（ ☒ 有（病院名：滋賀医科大学） ・ 無）

・ 他の特定機能病院等からの立入り受入れ（ ☒ 有（病院名：京都大学） ・ 無）

・ 技術的助言の実施状況

電子カルテ上での重大事案の報告手順書をはじめ、医薬品安全、高難度新規医療技術評価においてもいくつかの運用ルールが明文化されていないので、明文化することで職員が必要時に確認できる状況にすることが望ましいと指摘があった。

対応としては、指摘された内容は当院にとっても懸案事項として認識しており、院内文書管理体制の整備に合わせて現在進行形で運用ルールの明文化作業を進めている。

改善状況は、現時点で重大事案の報告手順の Brush up と電子カルテのトップ画面から直接マニュアルが閲覧できるように修正中。また現場での医薬品適応外使用のケースファインディングや高難度新規医療技術申請基準の文書化を進めている。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

総合相談窓口（医療相談室 相談係）、患者・家族支援室

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

医療法施行規則に従い、研修を実施している。インシデント・アクシデント報告の方法・その後の流れを含む本院医療安全の基礎、及び、本院の現状を基に改善策を提案する内容の研修を行っている。

未受講者対策として、本人宛受講促進通知を出すとともに、所属長・リスクマネージャーに促進依頼通知を出している。

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

研修の実施状況

管理者

- ・2020年度特定機能病院管理者研修（2020年12月16日受講）

医療安全管理責任者

- ・2020年度特定機能病院管理者研修（2021年1月28日受講）

医薬品安全管理責任者

- ・2020年度特定機能病院管理者研修（2020年12月24日受講）

医療機器安全管理責任者

- ・2020年度特定機能病院管理者研修（2021年2月4日受講）

(注) 前年度の実績を記載すること

⑭ 医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・ 第三者による評価の受審状況

機能評価 2022 年 2 月 一般病院 3 (3rdG : Ver2.0) 受審予定

受審後の評価に基づき、速やかにホームページ上で公表する予定

(注) 記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準
・基準の主な内容 1. 臨床研修修了医師とすること 2. 医療の安全の確保のために必要な資質及び能力を有していること 3. 人との信頼関係を重視し、社会規範、コンプライアンスを遵守できること 4. 奈良県立医科大学附属病院の理念を実現するための熱意、戦略と実行力を有すること 5. 組織管理能力等の当院を管理運営する上で必要な資質及び能力を有していること 6. 法人の運営について、他の役員と一致団結して、公立大学法人奈良県立医科大学の発展に貢献できること 7. 医療従事者の新しい働き方についてリーダーシップを発揮できること 8. 臨床研究を推進するための戦略と実行力を有すること ・基準に係る内部規程の公表の有無（ ☒ 有 ・ 無 ） ・公表の方法 本学ホームページにおいて一般に公開

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無				有 ・ ☒ 無
・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（ 有 ・ 無 ） ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（ 有 ・ 無 ） ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（ 有 ・ 無 ） ・ 公表の方法				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
				有 ・ 無
				有 ・ 無
				有 ・ 無
				有 ・ 無

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の
設置及び運営状況

合議体の設置の有無			☒ 有・無
合議体名称：病院運営協議会 - 合議体の主要な審議内容 医療法施行規則（平成30年厚生労働省令第70号）第9条の23の規定にかかる特定機能病院の管理運営に関する重要な事項及び病院経営・運営方針等院務に関する重要な事項 - 審議の概要の従業者への周知状況 院内全所属の所属長が委員であるので、所属に持ち帰って周知を行う。 加えて、実務を担当している医局長が参加する医局長会でも、運営協議会での審議内容を議題とすることにより、広く周知を図っている。 - 合議体に係る内部規程の公表の有無（有・☒無） - 公表の方法 - 外部有識者からの意見聴取の有無（有・☒無）			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長（○を付す）	職種	役職
吉川 公彦	○	医師	附属病院長
斎藤 能彦		医師	診療科部長
室 繁郎		医師	診療科部長
吉治 仁志		医師	診療科部長
笠原 敬		医師	診療科部長
杉江 和馬		医師	診療科部長
庄 雅之		医師	副院長・診療科部長
中瀬 裕之		医師	診療科部長
澤端 章好		医師	診療科部長

田中 康仁		医師	副院長・診療科部長
桐田 忠昭		医師	診療科部長
木村 文則		医師	診療科部長
緒方 奈保子		医師	診療科部長
野上 恵嗣		医師	診療科部長
牧之段 学		医師	診療科部長代理
浅田 秀夫		医師	診療科部長
藤本 清秀		医師	診療科部長
北原 紘		医師	診療科部長
田中 利洋		医師	診療科部長
長谷川 正俊		医師	診療科部長
川口 昌彦		医師	診療科部長
福島 英賢		医師	診療科部長
西尾 健治		医師	副院長・診療科部長
桑原 理充		医師	診療科部長
城戸 顕		医師	診療科部長
大林 千穂		医師	診療科部長
澤端 章好		医師	診療科部長
鶴屋 和彦		医師	診療科部長
高橋 裕		医師	診療科部長
武田 真幸		医師	診療科部長
山崎 正晴		医師	中央診療施設の長
松本 雅則		医師	中央診療施設の長

美登路 昭		医師	中央診療施設の長
小山 文一		医師	中央診療施設の長
玉本 哲郎		医師	中央診療施設の長
西久保 敏也		医師	中央診療施設の長
四宮 敏章		医師	中央診療施設の長
上村 秀樹		医師	中央診療施設の長
平井 都始子		医師	中央診療施設の長
田中 忍		臨床検査技師	中央診療施設の長
西村 努		診療放射線技師	中央診療施設の長
畠中 利英		歯科技工士	中央診療施設の長
池田 和之		薬剤師	中央診療施設の長
橋口 智子		看護師	副院長・看護部長
吉川 雅則		医師	栄養管理部長
赤井 靖宏		医師	臨床研修センター長
笠原 正登		医師	臨床研究センター長
辰巳 満俊		医師	医療安全管理者
今村 知明		医師	法人特命企画官
宇都宮 弘和		事務	理事（総務・経営）
藤田 和成		事務	事務長
樋口 浩史		事務	課長
奥田 稔		事務	課長
鶴谷 幸彦		事務	課長
久保 良佳		事務	室長

上野 聡		事務	課長
鷹堅 覚		事務	課長
廣田 雅彦		事務	課長
吉村 雅則		事務	室長

規則第 15 条の 4 第 1 項第 1 号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（ 有・☒ ）
- ・ 公表の方法

- ・ 規程の主な内容

奈良県立医科大学付属病院長職務規程

（職務権限）

第 2 条 附属病院長は、次の各号に定める職務を行う。

- (1) 病院の経営に関すること
- (2) 病院の管理運営に関すること
- (3) 病院の人事に関し、理事長に上申すること
- (4) 病院職員の資質向上のために必要な研修に関すること

2 附属病院長は、病院における全ての業務を総括し、その責任を有する。

公立大学法人奈良県立医科大学会計規程施行細則

2 理事長の事務の委任（規程第 3 条関係） 理事長の事務の委任を受ける者、
範囲及び権限は別表 1 のとおりとする。

- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割

副院長：病院長の補佐

事務長：病院長の下、病院事務を統括

院長ガバナンス支援タスクフォース：関係部署による病院長ガバナンス強化のサポート

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況

診療情報管理士の資格取得の支援

法人職員の県派遣実務研修の実施

規則第 15 条の 4 第 1 項第 2 号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する
状況

監査委員会の設置状況				☒ ・無	
・ 監査委員会の開催状況：年 2 回 ・ 活動の主な内容：医療安全管理に係る事項を監査し、是正措置を講ずるよう意見具申を行う。 ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（ ☒・無 ） ・ 委員名簿の公表の有無（ ☒・無 ） ・ 委員の選定理由の公表の有無（ ☒・無 ） ・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（ 有・☒ ） ・ 公表の方法：本学ホームページにおいて一般に公開					
監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）					
氏名	所属	委員長 （○を付す）	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
水本 一弘	和歌山県立医科大学	○	和歌山県立医科大学附属病院医療安全推進室長であり、医療にかかる安全に関する識見を有するため	有・ ☒	1
加藤 高志	加藤高志法律事務所		医療に関する訴訟経験が豊富であり、法律に関する識見を有するため	有・ ☒	1
松井 忠昭	ボランティアグループ		病院の状況への理解が深く、医療を受ける側の立場からの客観的意見を得られるため。	有・ ☒	2

（注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

- ・ 体制の整備状況及び活動内容

書面および実地により会計等に係る監査を実施

- ・ 専門部署の設置の有無 (☒ ・ 無)
- ・ 内部規程の整備の有無 (☒ ・ 無)
- ・ 内部規程の公表の有無 (有 ・ ☒)
- ・ 公表の方法

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 役員会では附属病院の予算決算等の管理運営に関する審議事項があり、理事長（開設者）が病院業務に関与し監督している。 ・ 会議体の実施状況（ 年37回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ ☒ ・ 無 ）（ 年37回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ ☒ ・ 無 ） ・ 公表の方法 本学ホームページにおいて一般に公開			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

（注） 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合
等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（ ☒ 有 ・ 無 ） ・ 通報件数（年 0 件） ・ 窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（ ☒ 有 ・ 無 ） ・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（ ☒ 有 ・ 無 ） ・ 周知の方法 本学ホームページにおいて一般に公開

公立大学法人奈良県立医科大学会計規程施行細則
別表1 事務委任の範囲等(「3 会計管理者」関係)

支 出		権限区分							摘要
		理事長	会計管理部門			執行部門			
項 目	経費の種類		会計管理者 (総務・経営担当理事)	会計管理者の一部事務受任者 (法人企画部長)	会計管理者の一部事務委任者 統括会計員 (財務企画課長)	予算責任者 (総務・経営担当理事) (教育・研究担当理事) (医療担当理事)	統括経理責任者 (法人企画部長) (病院経営部長)	経理責任者 (各課・室長等)	
予算執行承認権限 (購入依頼書又は事業 執行伺書等)	備品(工具・器具及び備品、 備品費など)	5,000万円以上	1,000万円以上5,000万円未 満	100万円以上1,000万円未満	500万円以上1,000万円未満	100万円以上500万円未満	100万円未満	1. 公立大学法人奈良県立 医科大学契約規程第22条第 1号及び第7号の規定に基 づき、随意契約しようとする 場合にあっては、支出契約と 併せて予算執行承認を行う ことを可とする。(細則18 (1)) 2. 予算責任者及び統括経 理責任者で承認されるもの については、統括会計員の 確認が必要	
	施設・設備整備(修繕に属するものを除く)	5,000万円以上	1,000万円以上5,000万円未 満	100万円以上1,000万円未満	500万円以上1,000万円未満	100万円以上500万円未満	100万円未満		
	報酬謝金費、報償品、報償金、食糧費、交際費、補助金、助成金	100万円以上	○	30万円以上100万円未満	30万円以上100万円未満	30万円以上100万円未満	30万円未満		
	寄附、賠償	すべて	○	○	○	○	○		
	人件費	すべて	○	○	○	○	○		
	資金運用(有価証券の取得等)	すべて	○	○	○	○	○		
	その他の支出	5,000万円以上	1,000万円以上5,000万円未 満	100万円以上1,000万円未満	500万円以上1,000万円未満	100万円以上500万円未満	100万円未満		
支出契約決議承認権限 (支出契約決議書等)	備品・施設整備	—	—	100万円以上	—	100万円以上1,000万円未満	100万円未満		
	上記以外全て	—	—	100万円以上	—	100万円以上1,000万円未満	100万円未満		
債務確認等承認権限 (債務計上一覧表、経費精算書、立替経費精算書、仮払申請書、仮払精算書、予算執行振替伝票)	すべて	—	—	すべて	—	—	○		

- (注1) 単価契約については、予定単価に執行見込み件数を乗じて算出される金額を持って承認権限を区分する。
- (注2) 複数年契約については、1カ年の価格ではなく、契約期間総額を持って承認権限を区分する。
- (注3) 予算執行の承認権限は、執行価格ではなく、予定価格を持って区分する。
- (注4) 軽微なものについては、公立大学法人奈良県立医科大学事務決裁規程第5条に規定する代決者が、上記に記載するそれぞれの承認権限者から委任を受け代理で承認することができるものとする。この場合あらかじめ承認権限者と代決者が委任する範囲を協議しておくこと。

収入		権限区分							摘要
		理事長	会計管理部門			執行部門			
項 目	経費の種別		会計管理者 (総務・経営担当理事)	会計管理者の一部事務受任者 (法人企画部長)	会計管理者の一部事務委任者 統括会計員 (財務企画課長)	予算責任者 (総務・経営担当理事) (教育・研究担当理事) (医療担当理事)	統括経理責任者 (法人企画部長) (病院経営部長)	経理責任者 (各課・室長等)	
債権発生の前提となる契役、申出の受諾、申請等の承認	寄附金	○	○	○	○	○	○	○	
	寄附金以外全て (理事長名で契約等を行う場合)	—	すべて	○	○	○	○	○	
	寄附金以外全て (予算責任者名で契約等を行う場合)	—	—	—	○	統括経理責任者が必要と判断する場合	○	○	1,000万円未満で、予算責任者名での契約等が可能なもの
債権の計上、入金の確認	授業料(自動引落分)、診療収入など(振替伝票処理分)	—	—	—	すべて	—	—	○	
(債権計上一覧表、(予算執行)振替伝票、入金実績リスト)	上記以外全て (債権計上一覧表、入金実績リスト処理分)	—	—	—	すべて	—	—	○	